NXPowerLite™ - データ圧縮ソフト -

NXPowerLite 10 ファイルサーバーエディション

マニュアル

FSE 10.3.1-2

目次

1. NXPowerLite ファイルサーバーエディション 4

1.1. 動作環境 5
1.2. 以前のバージョンからのアップグレード方法 6

2. NXPowerLite ファイルサーバーエディションの利用方法 8

2.1. プログラムをインストールする 8
2.2. シリアルナンバーを登録する 10
2.3. フォルダーを追加してファイルを軽量化する 12

3. 各種機能・設定 15

3.1. ファイル 15
3.1.1. フォルダーの追加 15
3.1.2. 複数フォルダーの追加 15
3.1.3. ルールの追加 16
3.1.4. Windows サービスの設定 19
3.1.5. 軽量化履歴の確認 22
3.1.6. 軽量化履歴の削除 23
3.1.7. 環境設定 24
3.2. プロファイル 26
3.2.1. 対象ファイル形式 26
3.2.2. 軽量化レベル 28
3.2.3. スケジュール 31
3.3. レポート 36
3.4. ヘルプ 39
3.5. アクセス制限やサーバー上のフォルダーを軽量化する 40
3.5.1. 共有フォルダーのアクセス権設定 40
3.5.2. ファイルシステムのアクセス権設定（NTFS の場合） 42
3.6. ネットワーク上の別ドメインのフォルダーを軽量化する 43
3.7. 外部コマンドによるプログラム実行 45

4. その他 46

4.1. ファイル軽量化の仕組み 46
4.2. シミュレーションモードについて 48
4.3. 軽量化モードについて 49
4.4. 軽量化レベルの設定による JPEG 画質レベルの比較 50
4.5. マルチスレッド処理による処理時間の違い 52
4.5.1. ローカル/リモートの測定結果 53
4.5.2. 利用スレッド数の変更方法 55
4.5.3. 端末の CPU コア数/スレッド数の確認方法 56
4.6. トラブルシュート 57
4.7. ファイルの軽量化がスキップされた理由 58
4.8. アンインストール方法 59
4.9. サポート 60

1.NXPowerLite ファイルサーバーエディション

NXPowerLite ファイルサーバーエディションは、ファイルサーバー内に保存されている肥大化した Microsoft Office ファイル（PowerPoint、Word、Excel）や JPEG、PDF ファイルを、クオリティを損なうことなくファイルサイズを削減し、ストレージ容量不足の解消および効率的なサーバーリソースの活用を実現するソリューションです。

容量が大きいファイル内の余分な部分を取り除き、画像を最適なデータ形式と解像度に変換することにより、ファイルそのものを圧縮します。ファイル形式や拡張子、機能は全て変わらず、画質や見た目もそのままの状態で、ファイル内に含まれる全ての属性を保持します。解凍ソフトは必要なく、特別な閲覧ソフトも必要がないため、今まで通り同じ形式のままファイルを開くことができ編集も可能です。

NXPowerLite ファイルサーバーエディションは、**非可逆圧縮**によりファイルを圧縮します。ファイル内に数多く存在する余分な部分を取り除き、最適になるように調整します。軽量化の対象ファイルが保存されているサーバーと同じサーバー上にインストールすると、パフォーマンスを最大限に引き出すことが可能です。ネットワーク上の Windows マシンへインストールする場合、シミュレーションまたは軽量化処理実行時に CPU やメモリなどのリソースをより多く必要になることと、ネットワークを介してファイルをコピーする必要があるため、実環境に影響の出ない環境でのシミュレーション実行を推奨します。

1.1. 動作環境

最新の動作環境および詳細は、以下のページをご参照ください。

https://www.nxpowerlite.jp/products/nxpowerlite-file-server.html#system

オペレーティングシステム [1]

Windows 10 32bit および 64bit / Windows 11 64bit (いずれもシミュレーションのみ)

Windows Server 2016 / 2019 / 2022 / 2025

Windows Storage Server 2016 [2]

Windows Server IoT 2019 / 2022 / 2025 for Storage [2]

※　軽量化（またはシミュレーション）の実行時は、インストールを行った端末の一時フォルダーを使用します。初期値では 2 スレッドで軽量化処理が実行されるため、軽量化対象フォルダー内にあるファイル内で 1 番大きいファイルの 4 倍以上の空き容量が必要です（スレッド数が多いほど、より多くの空き容量が必要になります）。

[1] 対応 OS であれば仮想デスクトップ環境上でもご利用になれますが、仮想アプリケーション環境上ではご利用になれません。また実行する端末には「.NET Framework 4.5.2 以降」がインストールされている必要があります。

[2] Windows Storage Server は OEM 供給元によって独自のカスタマイズが行われている場合があり、使用できる機能などもその供給元によって異なる可能性があります。

1.2. 以前のバージョンからのアップグレード方法

【アップグレードの前に】

以前のバージョンの NXPowerLite ファイルサーバーエディションがインストールされている場合、上書きインストールによりアップグレードすることができます。

ただし、前バージョンの設定情報を自動引継ぎできるのは、現在使用中のバージョンが一つ前のメジャーバージョン（バージョン９）の場合に限ります。この場合は、以下の情報が自動的に引き継がれます。

- 軽量化対象フォルダーおよび除外フォルダー
- 各プロファイル情報（対象ファイル形式、軽量化レベル、スケジュール）
- 環境設定
- レポート情報（1 回のみ実行のレポート、現在実行中のレポート）
- レジストリ設定

※Windows サービスの設定のアカウント情報はいずれのバージョンの場合も引き継がれないため、事前に必ず設定値をご確認ください。

9.x 未満のバージョンからアップグレードする場合は、上記情報は引き継がれません。アップグレード時にすべて初期化されますので、事前に必ず設定値を控えた上でアップグレードを行ってください。アップグレード後には、ダッシュボードから同内容の設定を手動で行う必要があります。

【アップグレード方法】

NXPowerLite ファイルサーバーエディションのプロセスがすべて停止した状態で上書きインストールする必要があります。下記の手順に従ってください。

1. 現在ご利用中の NXPowerLite ファイルサーバーエディションのダッシュボードを起動します
2. ダッシュボードで処理が実行中の場合、その処理を停止します。
   - 2.1 右下のボタンが「停止」の場合は軽量化処理が実行中です。「停止」ボタンをクリックして処理を止めてください。
   - 2.2 右下のボタンが「再開」の場合、[編集]ボタンをクリックして、フォルダーの編集画面の「OK」ボタンをクリックしてください。
3. 右下のボタンが「開始」となっていることを確認したら、ダッシュボードを閉じてください。
4. バージョン 10.x のインストーラーを起動し、上書きインストールを行ってください
5. 必要に応じて、バージョン 10 のシリアルナンバーを登録します。
   （サブスクリプションライセンスの場合は不要です）

※ OS およびサービスの再起動は不要です。

【設定値を控えずにアップグレードを実施してしまった場合】

以下のディレクトリにある各ファイルを文字コード「Unicode(UTF-16)」で開くことで、以前のバージョンの設定値をご確認いただけます。

バージョン 8.x :　C:¥ProgramData¥neuxpower¥NXPowerLite for File Servers v8¥

バージョン 9.x :　C:¥ProgramData¥neuxpower¥NXPowerLite for File Servers v9¥

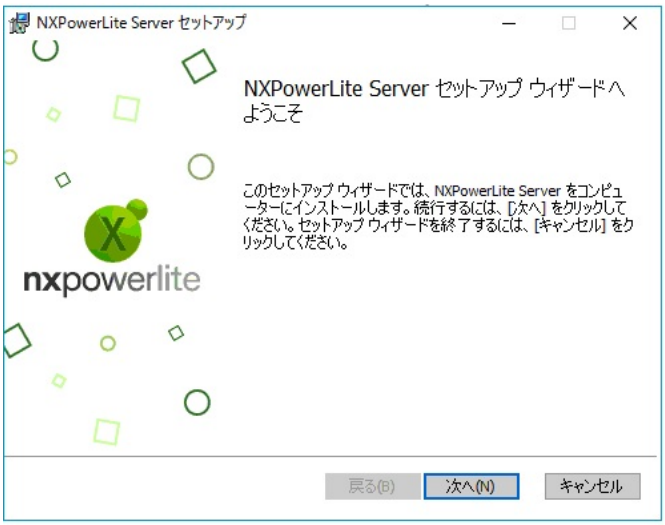
- exclude_locations_cfg.txt :　除外フォルダーの設定
- filetypes_cfg.txt :　対象ファイル形式の設定
- include_locations_cfg.txt :　軽量化対象フォルダーの設定
- schedule_cfg.txt :　スケジュールの設定
- settings_cfg.txt :　軽量化レベルの設定

2.NXPowerLite ファイルサーバーエディションの利用方法

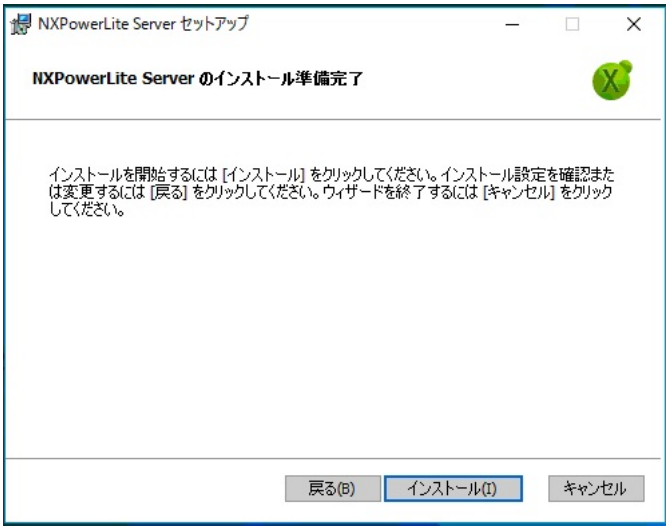
2.1. プログラムをインストールする

1. ダウンロードしたインストーラーを管理者権限で実行します。
   ※インストールが実行できない場合、MSI ファイルを右クリックし、[セキュリティ]の[ブロックの解除]-[適用]-[OK]をクリックします。

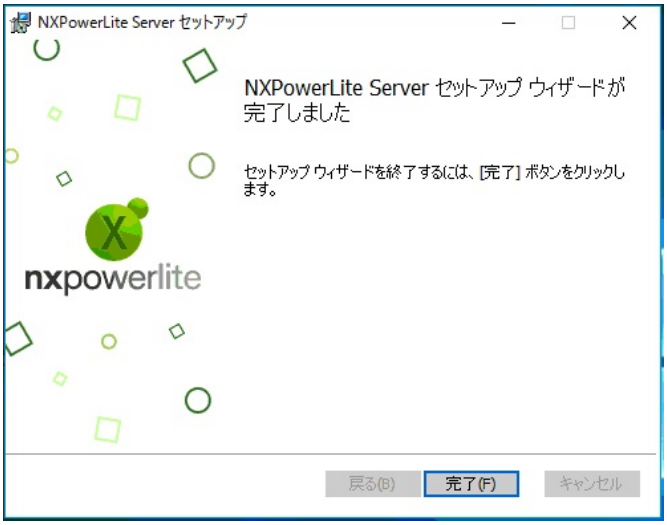
2. インストールウィザードに沿って[次へ]をクリックします。



3. [インストール]をクリックし、インストールを実行します。



4. 以下の画面が表示されたら、[完了]をクリックしてウィザードを終了します。



5. デスクトップ上に NXPowerLite ファイルサーバーエディションのアイコンが作成されます。
ダブルクリックするとプログラムが起動し、ダッシュボードが表示されます。

▼アイコン　▼ダッシュボード

NXPowerLite インストール後の再起動は不要です。ただし、一般的に多くのプログラムが実行中でリソースを消費しているマシンや、OS を長期間再起動していないマシンなどでは、プログラムのインストールが他のアプリケーションによって制限されている旨のメッセージが表示される場合があります。その場合には再起動を行ってください。

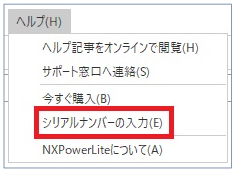
2.2. シリアルナンバーを登録する

NXPowerLite ファイルサーバーエディションには、「シミュレーションモード」と「軽量化モード」の 2 つのモードがあります。
「シミュレーションモード」は、いわゆる評価用のモードです。削減容量の計測のみを行い、実際のファイルの軽量化は行いません。NXPowerLite ファイルサーバーエディションにシリアルナンバーを登録していない状態では、「シミュレーションモード」として動作します。
製品購入時に付与されるシリアルナンバーを登録すると、本番稼働状態の「軽量化モード」となり、実際のファイル軽量化が行われるようになります。

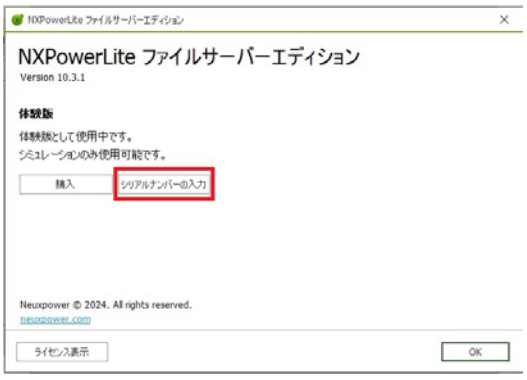
> シリアルナンバーは、以下のメールで案内しています：
> ・製品購入時に送付される納品メール
> ・保守サポート契約更新時の納品メール
> ・新しいメジャーバージョンがリリースされた際のリリース案内メール
> シリアルナンバーには、永続キーとサブスクリプションキーの 2 種類があります。永続キーの場合はメジャーバージョン毎にシリアルナンバーが異なります。永続キーをお持ちのユーザー様に送られる上記メールでは、メール送信時点の最新バージョンのシリアルナンバーが案内されています。

シリアルナンバーの登録は、[ヘルプ]-[シリアルナンバーの入力]または[ヘルプ]-[NXPowerLite について]-[シリアルナンバーの入力]で行います。シリアルナンバー入力後は軽量化モードのみ利用可能となりますが、シミュレーション実行時のレポートを閲覧することは可能です。製品版購入後にも「シミュレーションモード」を使用したい場合は、別のマシンにインストールしてご利用ください。

1. [ヘルプ]-[シリアルナンバーの入力]をクリックします（以前シリアルナンバーを登録したことがある場合は表示されません。その場合は、[ヘルプ] [NXPowerLite について] から選択します）。

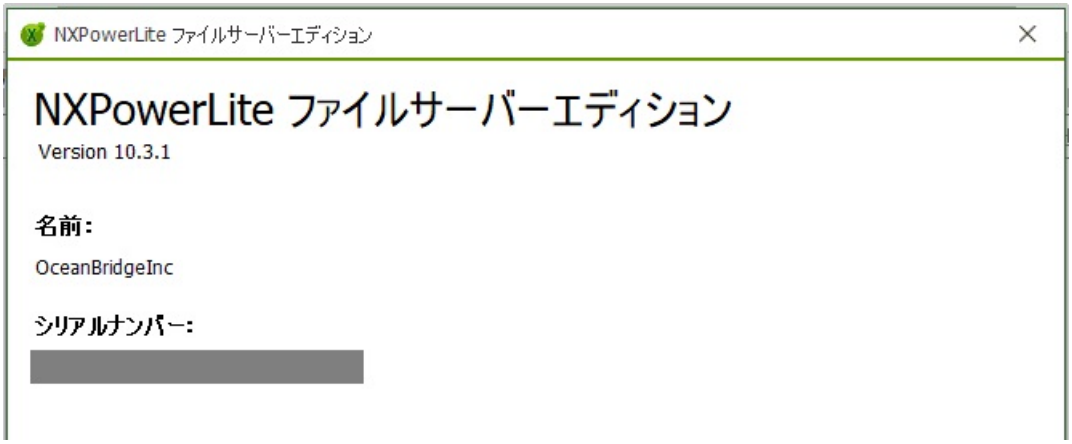


▼NXPowerLite について



2. [シリアルナンバーの入力]をクリックし、お持ちのシリアルナンバーを入力します。
   ※シリアルナンバーは大文字、小文字を区別します。納品メールに記載の通り入力してください。

3. シリアルナンバーが有効であれば、「NXPowerLite ファイルサーバーエディションについて」のウィンドウが表示され、承認された登録情報の詳細が表示されます。



シリアルナンバーの詳細については、下記の「よくあるお問い合わせ」よりご確認ください。

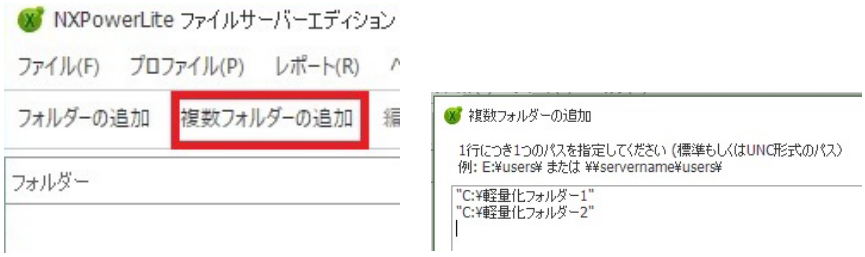
https://nxpsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/nxpowerlite/fs/serial-number

2.3. フォルダーを追加してファイルを軽量化する

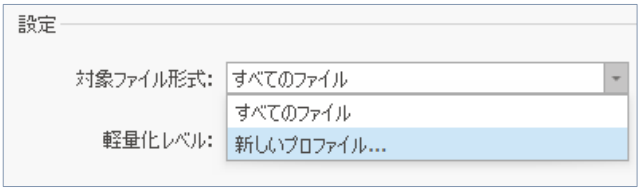
実際にファイルの軽量化を行うには、軽量化したいファイルが含まれるフォルダーパスをダッシュボード上で指定する必要があります。手順は以下になります：

1. [フォルダーの追加]をクリックし、軽量化を行うフォルダーを追加します。

※ [複数フォルダーの追加]をクリックし、1 行につき 1 つのフォルダーパスを入力することで複数のフォルダーを追加することもできます。また、リモートサーバー上のフォルダーパスを指定する場合にも、この「複数フォルダーの追加」から UNC 形式でパスを指定します。



2. 指定したフォルダーパスに対して適用する[対象ファイル形式]と[軽量化レベル]のプロファイルを選択し、[OK]をクリックします。プロファイルについては、「3.2 プロファイル」で詳しく解説します。



※ サービス実行アカウントからアクセスできないフォルダーを追加した場合、フォルダーパスが赤字で表示されます。3.1.4 についてご確認ください。

3. Windows サービスの実行アカウントの設定を行います。
軽量化処理を行うプロセスは、「NXPowerLite File Server」という Windows サービスにて管理されます。この Windows サービスの実行アカウントは、デフォルトでは「ローカルシステムアカウ

ント」となっています。ローカルシステムアカウントがアクセスできない場所にあるファイルを軽量化する場合は、Windows サービスの実行アカウントを適切に設定する必要があります。詳しくは「3.1.4 Windows サービスの設定」を参照してください。

4. 対象フォルダーのサブフォルダーを軽量化対象から除外する場合、ルールの追加（3.1.3 参照）を行います。

5. 任意の周期ごとに軽量化を実行する場合、スケジュールの設定（3.2.3 参照）を行います。

6. ダッシュボード右下の[開始]ボタンをクリックすると軽量化を開始します。処理の進捗はステータスバーで確認できます。

   ▼圧縮処理実行中の画面

   ▼ステータスバー

   ※　軽量化モードでの初回実行時、「ローカルシステムアカウント」で処理を実行した際には以下のメッセージが表示されます。
   [続行]をクリックして軽量化を実行します。

7. 軽量化が完了すると処理が停止します。
   ダッシュボード右下のボタンが「開始」に戻ります。

※　実行モードが一回のみ実行の場合が、完了後は「レポートが作成されました。」とポップアップが表示されます。「レポートの表示」をクリックするとレポートの内容を確認できます。実行モードについては「3.1.7 環境設定」を、レポートについては、「3.3 レポート」をご参照ください。

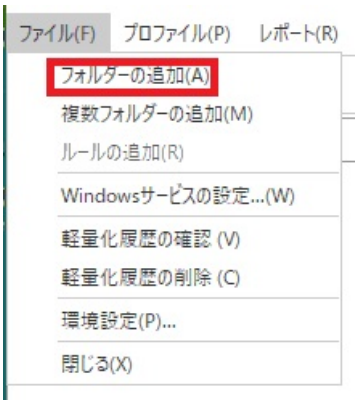
NXPowerLite ファイルサーバーエディションでは、「開始」ボタンが押された際、ダッシュボードに指定された軽量化対象フォルダーパス内のファイルを全てスキャンし、独自の基準に基づいてファイルの軽量化処理順序を決め、リストを作成しています。
このリストは処理を効率化するために内部的に利用されるものであり、ユーザーの目に触れるものではありません。
たとえば A,B,C の 3 つのフォルダーパスがダッシュボード上に指定されている場合でも、フォルダーパス A 内のファイル→フォルダーパス B 内のファイル…の順で軽量化処理が行われているわけではないという点にご注意ください。

3.各種機能・設定

3.1. ファイル

3.1.1. フォルダーの追加

軽量化対象のドライブ/フォルダーを選択するにはダッシュボードの[フォルダーの追加]ボタンをクリックします。[フォルダーの追加]ウィンドウが開いたら、シミュレーション/軽量化を実行するドライブまたはフォルダーを選択します。選択したドライブ/フォルダーはリストに追加され、対象ファイル形式と軽量化レベルそれぞれ初期設定のプロファイルが自動で設定されます。
初期設定とは別のプロファイルを設定するには、[フォルダーの追加]ウィンドウの[対象ファイル形式]（3.2.1 参照）、[軽量化レベル]（3.2.2 参照）のドロップダウンリストから「新しいプロファイル...」をクリックしてプロファイルを作成してください。



明示的に指定しない限り、初期設定では選択された軽量化対象フォルダーのサブフォルダーも軽量化対象フォルダーとして自動的に含まれます。除外対象サブフォルダー指定方法については、以下の「ルールの追加」のセクション、「指定したフォルダーとサブフォルダーを除外する」を参照してください。

3.1.2. 複数フォルダーの追加

[ファイル]メニューの[複数フォルダーの追加]では、一度に複数のフォルダーをリストに追加することが可能です。軽量化対象フォルダーのフォルダーパスをコピー、または直接フォルダーパスを入力してリストに追加してください。1 行につき 1 つのパスを指定します。
[複数フォルダーの追加]ウィンドウでフォルダーを複数指定して[OK]ボタンをクリックすると、ダッシュボード上に選択した軽量化対象フォルダーが一覧で表示されます。

フォルダーパスの誤入力や入力したフォルダーパスが存在しない場合は、対象フォルダーのリスト上で赤字表示されます。

ダッシュボード上に追加されたフォルダーパスに対し、以下のようなことができます：
[編集]ボタン…対象ファイル形式や、軽量化レベル設定を変更することができます。

[ルールの追加]ボタン…指定したフォルダーパスのサブフォルダーに対する設定を変更します。詳細は次項[3.1.3　ルールの追加]にて説明されています。

[削除]ボタン…設定したフォルダーパスを削除します。

[フォルダーの無効化/有効化]ボタン…フォルダーパスを一時的に無効化したり有効化したりすることができます。無効状態のサブフォルダーはグレーで表示され、軽量化処理の対象外となります。

3.1.3. ルールの追加

デフォルトでは選択したフォルダーパス内のすべてのサブフォルダーに対して軽量化が実行されます。除外するフォルダーを指定したり対象ファイル形式や軽量化レベルを変更したりするには、リストからフォルダーパスを選択後、[ルールの追加]ボタンをクリックします。

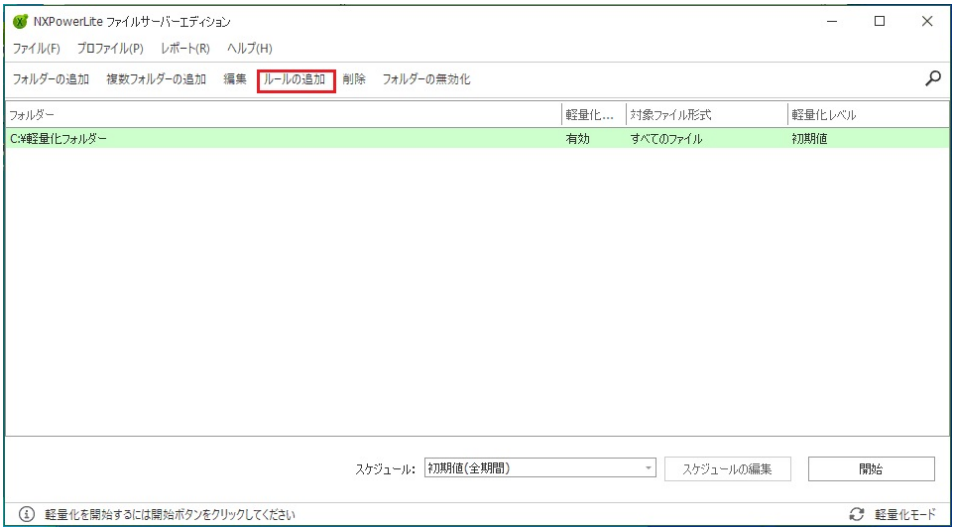
※　対象フォルダーがサブフォルダーを含まない場合、[ルールの追加]ボタンはグレーアウトされます。

指定したフォルダーとサブフォルダーを除外する	軽量化対象フォルダー内のある特定のサブフォルダーを軽量化の対象から除外することができます。除外対象のフォルダーパスを選択すると、リスト上には除外対象のフォルダーパスが右に字下げされ、 アイコンと共に関連するフォルダーパスの下に表示されます。
指定したフォルダーとサブフォルダーの設定を変更する	軽量化対象フォルダー内のある特定のサブフォルダーに対して、対象ファイル形式と軽量化レベルの変更を行えます。（変更方法は、後述の例をご参照ください）

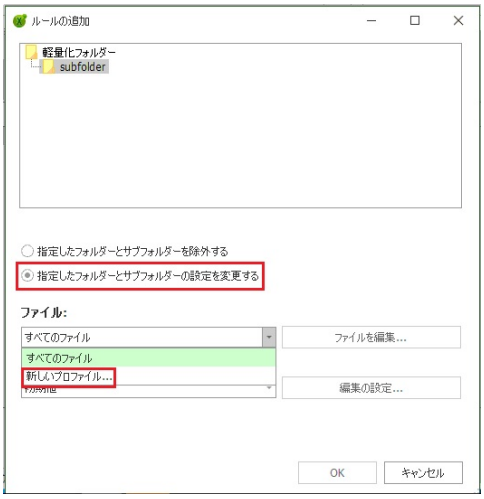
【フォルダー/サブフォルダー設定の変更例】

以下の手順では、「ある特定のサブフォルダーに対しては PDF ファイルを軽量化対象とする」という設定をご紹介しております。

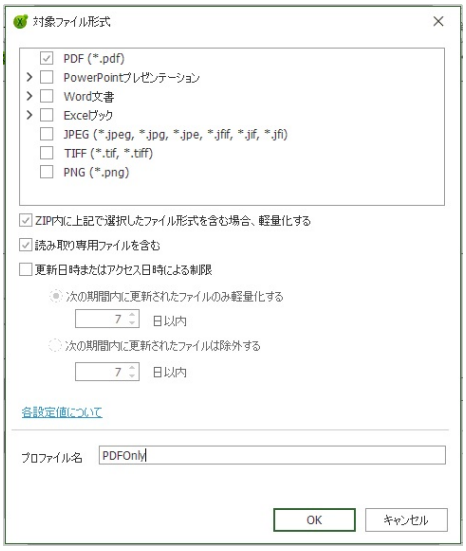
1. ダッシュボードの軽量化対象リストで対象ファイル形式の設定を変更したいサブフォルダーを含むフォルダーを選択します。
2. [ルールの追加]ボタンをクリックし、対象のサブフォルダーを選択します。



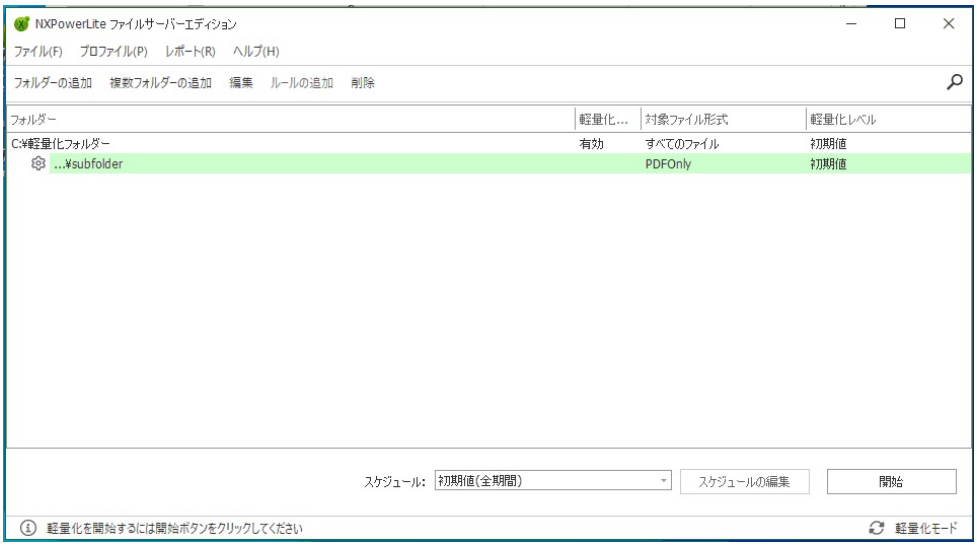
3. 「指定したフォルダーとサブフォルダーの設定を変更する」をクリックします。
4. [対象ファイル形式]のドロップダウンリストから「新しいプロファイルの作成...」を選択します。



5. [対象ファイル形式]ウィンドウで「PDF(*.pdf)」のみにチェックを付け、他のファイル形式のチェックを外します。プロファイル名を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



6. リスト上には設定を変更したサブフォルダーパスが右に字下げされ、 アイコンと共に関連するフォルダーパスの下に表示されます。

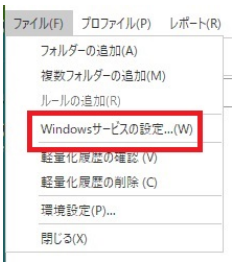


3.1.4. Windows サービスの設定

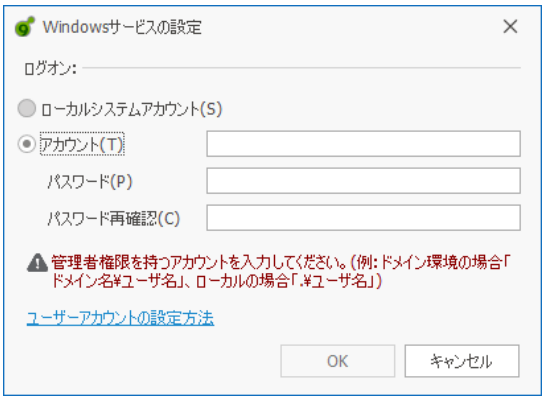
NXPowerLite ファイルサーバーエディションが指定フォルダー内のファイルを圧縮したり、またはその効果をシミュレーションするためには、NXPowerLite のサービスを実行するアカウントが対象フォルダーへの「読み取り/書き込み」権限を持っている必要があります。 例として、Windows では「共有フォルダーのアクセス権」「ファイルシステムのアクセス権（NTFS の場合）」がこれに当たります。
ローカル上のアクセス制限が行われているフォルダーや、ファイルサーバー上のフォルダーを軽量化するためには、本項目および 3.5 の設定が必要になります（ファイルサーバー上のフォルダーが実行アカウントと同じドメインにない場合は、3.6 の設定も必要になります）。

以下 A,B のいずれかを設定ください。

【A. ダッシュボード上で設定】



1. NXPowerLite ファイルサーバーエディションを起動して、[ファイル]-[Windows サービスの設定...]を選択します。
2. 「アカウント」を選択して、対象フォルダーに対して「読み取り」、「書き込み」権限を持つアカウントの設定を行い「OK」をクリックします。
   例：ドメイン環境の場合「ドメイン名¥ユーザー名」、
   ローカルの場合「.¥ユーザー名」



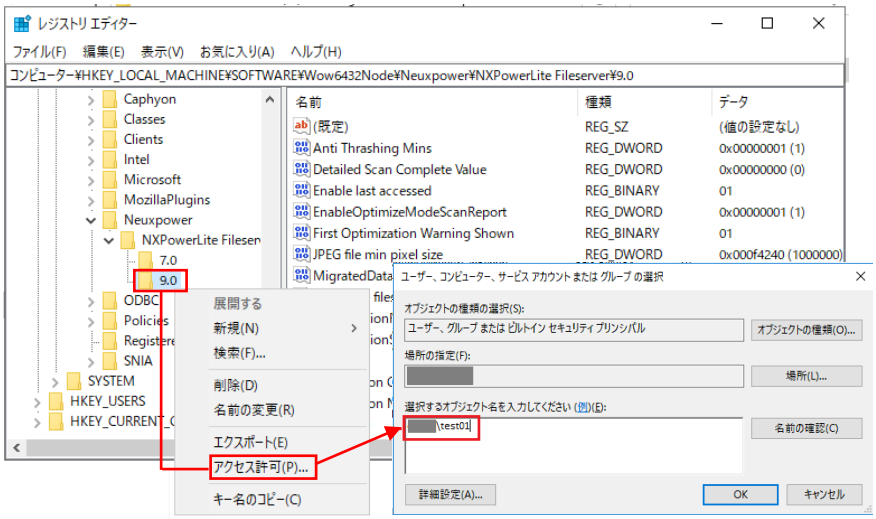
【B. Services.msc で設定】

1. Windows サービスを起動します（[Windows]+[R]キーを押下後、「services.msc」と入力）。
2. 「NXPowerLite File Server」をダブルクリックします。
3. 「ログオン」タブを開きます。
4. 「アカウント」を選択します。
5. すべての軽量化対象フォルダーへの「読み取り/書き込み/更新/削除」権限を持つアカウント名とパスワードを入力します。
6. 「OK」をクリックします。
7. 「NXPowerLite File Server」を右クリックして、メニューから「再起動」を選択します。

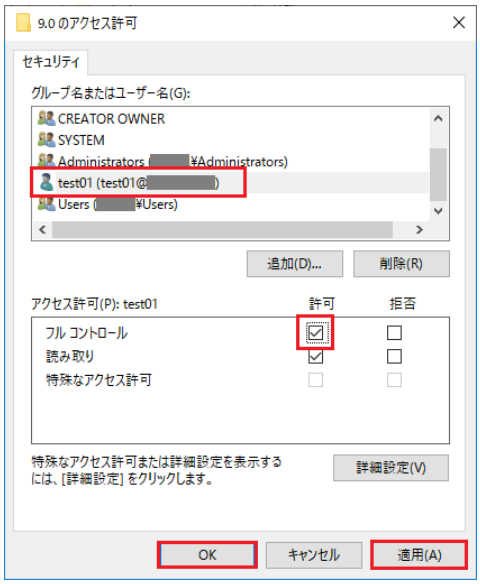
ユーザー権限のアカウントで NXPowerLite のサービスを実行する場合、インストール端末のレジストリおよびファイルシステムへアクセスできるよう権限を付与しておく必要があります。
※NXPowerLite をインストールした端末で、管理者権限アカウントで実施してください。

【レジストリのアクセス権限設定】

1. レジストリエディタを起動します（[Windows]+[R]キーを押下後、「regedit」と入力）。
2. 以下のレジストリキーに移動します。
   HKLM¥Software¥Wow6432Node¥Neuxpower¥NXPowerLite File Server¥10.0
3. レジストリキー上で右クリックし、[アクセス許可（P）]をクリックします
4. [追加]をクリックし、NXPowerLite を実行するユーザーアカウント（ドメイン¥ユーザー名）を「選択するオブジェクト名」として入力後、[OK]をクリックします。

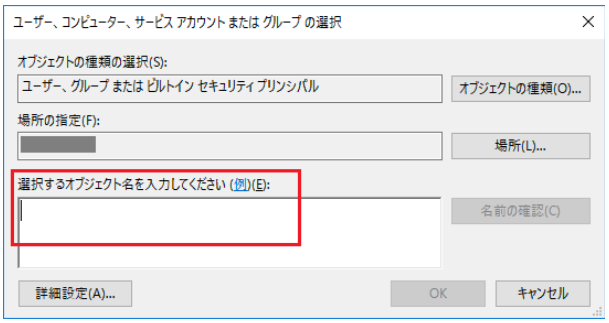


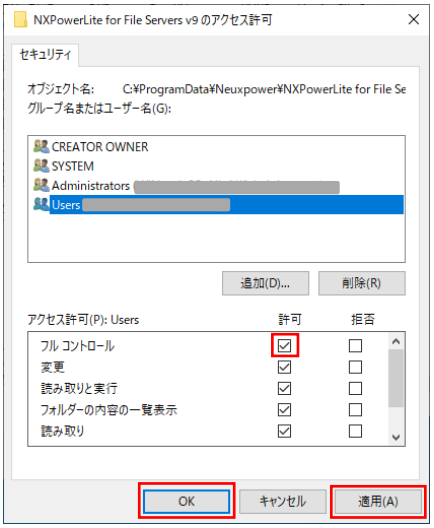
5. 追加したユーザーの[フルコントロール]にチェックを入れて適用後、[OK]をクリックします。



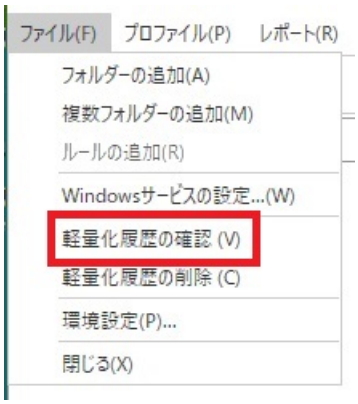
【設定フォルダーのファイルシステムのアクセス権設定】

1. Windows のエクスプローラーを開き、以下のディレクトリに移動します。
   C:¥ProgramData¥Neuxpower¥NXPowerLite for File Servers v10
2. 「NXPowerLite for File Servers v10」のフォルダーを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
3. [セキュリティ]タブ内の[編集]をクリックします。
4. [追加]をクリックし、NXPowerLite を実行するユーザーアカウント（ドメイン¥ユーザー名）を「選択するオブジェクト名」として入力後、[OK]をクリックします。
5. 追加したユーザーの[フルコントロール]にチェックを入れて適用後、[OK]をクリックします。





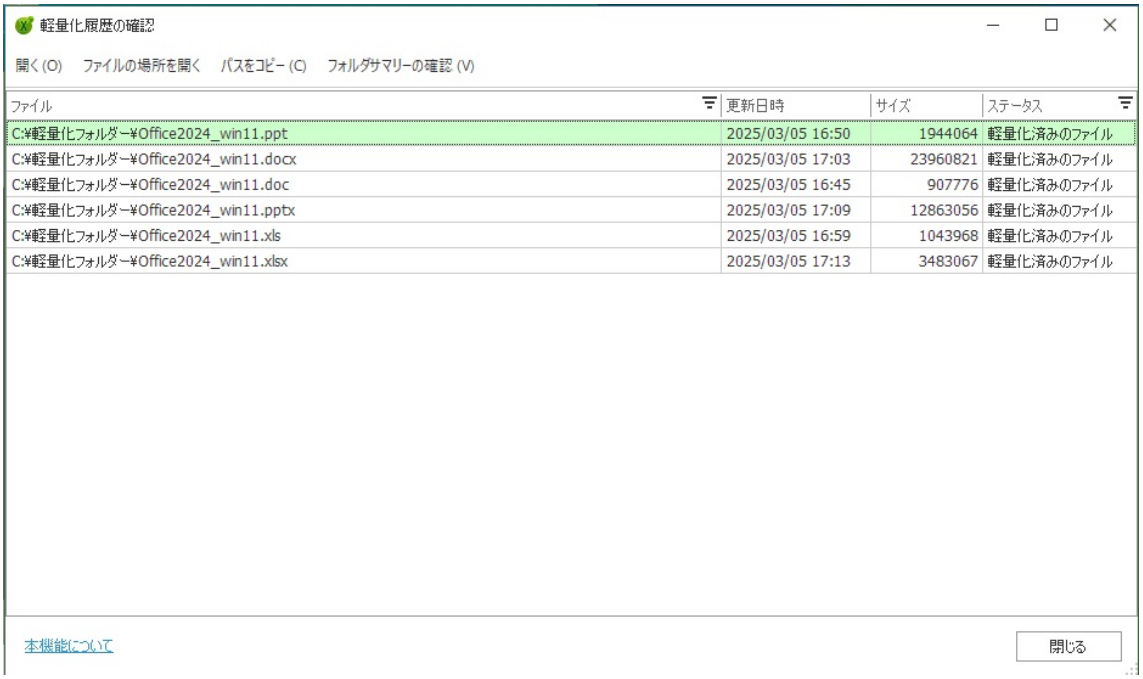
3.1.5. 軽量化履歴の確認



NXPowerLite Server は、軽量化処理のためにスキャンしたファイルについて、軽量化が成功したか否かに関わらずその情報を履歴として記録します。この履歴情報は、設定ファイルと同じ場所に保存されます。

これらの履歴は次回軽量化時のファイルスキャン時に参照されます。軽量化対象のファイルと一致するものがあれば、NXPowerLite はそのファイルを「すでに軽量化済」とみなし安全にスキップします。NXPowerLite は、最後に圧縮したときからサイズが大きく変化したファイルだけを圧縮しようとします。

NXPowerLite サーバーが保持している履歴情報を見るには、[ファイル]メニューの[軽量化履歴の確認]をクリックします。



「軽量化履歴の確認」画面には、対象ファイルのパス、更新日時、サイズ、ステータスが表示されます。また、各ファイルを選択すると、画面上部のメニューから以下の操作が行えます。

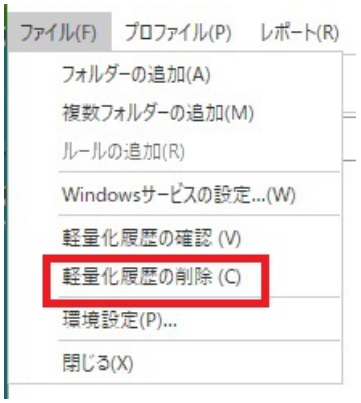
開く	履歴内のファイルを選択し、メニューの「開く」をクリックすると、該当のファイルを開くことができます。
ファイルの場所を開く	履歴内のファイルを選択し、メニューの「ファイルの場所を開く」をクリックすると、該当ファイルのフォルダーをエクスプローラーで開きます。

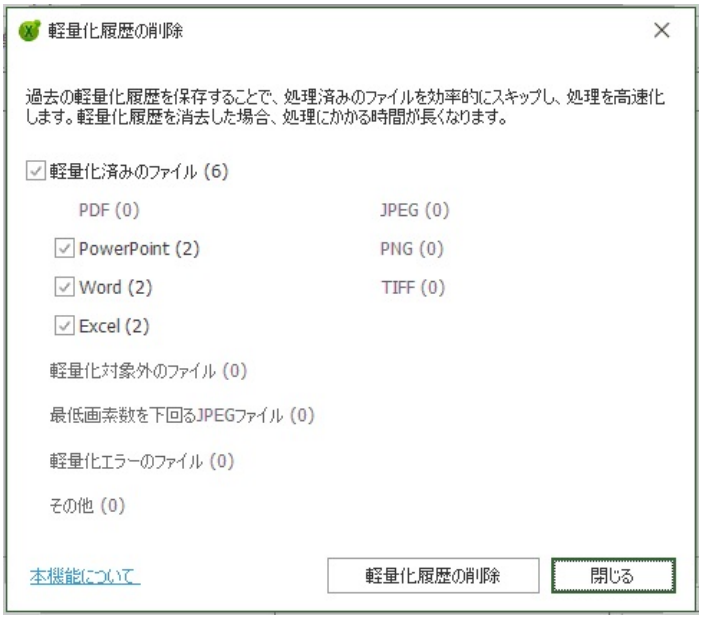
パスをコピー	履歴内のファイルを選択し、メニューの「パスをコピー」をクリックすると、該当のファイルパスがクリップボードにコピーされます。
フォルダサマリーの確認	選択したファイルのフォルダー内で NXPowerLite が軽量化対象として検討したファイル数の概要が表示されます。

3.1.6. 軽量化履歴の削除

前項で説明したように、ファイルサーバーエディションでは軽量化処理の際にファイルのスキャンデータを履歴として保存しています。これにより、過去に処理済みのファイルは効率的にスキップし、処理の高速化を実現しています。

[軽量化履歴の削除]では、それらのスキャン履歴を削除することができます。削除したファイルは再度スキャンの対象となるため、その分処理にかかる時間が長くなる点に注意が必要です。





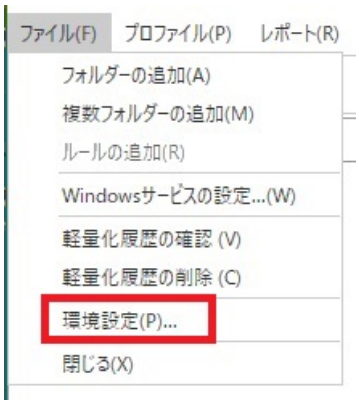
履歴削除は下記の単位で行うことができます。

軽量化済みのファイル	正常に軽量化されたファイルのデータが含まれます。
軽量化対象外のファイル	以下のデータが含まれます。 • 軽量化対象外のファイル形式 • 高速保存された Word 文書 • Office 97 より前の Office で作成されたファイル • デジタル署名されたファイル • 暗号化されたファイル、パスワードのかかっているファイル

最低画素数を下回る JPEG ファイル	1 メガピクセルを下回る JPEG ファイルのデータが含まれます。
軽量化エラーのファイル	以下のデータが含まれます。 • 現在の設定では軽量化できないファイル • 内部的に無効なファイル • Optimizer プロセスのクラッシュ • Optimizer プロセスからの予期せぬエラー
その他	以下のデータが含まれます。 • 軽量化対象外の PDF ファイル形式 • PDF ライブラリからの予期せぬエラー • Office 2016 より新しい Office で作成されたファイル • 圧縮されたデータを含む TIFF ファイル • Tags と呼ばれるデータ構造を持つ TIFF ファイル

3.1.7. 環境設定

環境設定は軽量化モードでのみご利用になれます。実行モード、および期間の定義を設定できます。



実行モード

「一回のみ実行」「繰り返し実行」のいずれかを選択します。

一回のみ実行	軽量化処理を手動で 1 回だけ行うモードです。ダッシュボードで設定したフォルダー/ドライブの全ファイルの軽量化処理は、「開始」ボタン押下時に開始され、すべ

	てのファイルの軽量化処理が行われると停止します。停止時には実行レポートを作成します。レポートはダッシュボード上の[レポート]-[一回のみ実行のレポート]からご確認いただけます。
繰り返し実行（初期設定）	軽量化対象として設定したフォルダー/ドライブに対して、一定時間毎に軽量化処理を繰り返し実行するモードです。「開始」ボタンを押した後に軽量化処理が開始された後、軽量化処理が一通り完了すると、処理が一時停止します。停止する期間は、「新しいファイルがない場合、次の時間一時停止します：」で指定した値に相当します。この値は「1 分～99,999 分」の間で設定できます。（初期値：1,440 分） たとえばデフォルトの 1,440 分（＝24 時間）を指定している場合、指定されたフォルダー/ドライブ内の軽量化が一通り完了すると停止し、24 時間経過すると処理が再実行されます。 停止中にフォルダー/ドライブに新たに追加されたファイルや軽量化処理の除外期間のため処理がスキップされたファイルは、次の処理再開時に軽量化処理が実行されます。 この設定は管理者が設定可能なオプションです。レポートはダッシュボード上の[レポート]-[現在実行中のレポート]からご確認いただけます。

※　レポートについての詳しい説明は「3.3 レポート」をご覧ください。

期間の定義

軽量化対象のファイルの抽出条件について、「ファイルの更新日時」「ファイルのアクセス日時」のどちらを基準にするかを選択できます。この設定は、「3.2.1 対象ファイル形式」の「更新日時またはアクセス日時による制限」の設定と関連しています。
たとえば、本設定で「ファイルのアクセス日時」を選択していて、「対象ファイル形式」内で「更新日時またはアクセス日時による制限」を有効にしている場合は、ファイルの”アクセス日時”を基準に軽量化対象か否かの判断がなされます。

初期設定では「ファイルの更新日時」が選択されています。

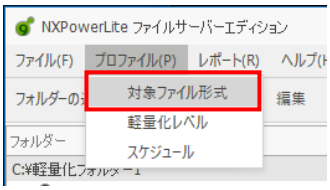
現在の日時でファイルを上書きする

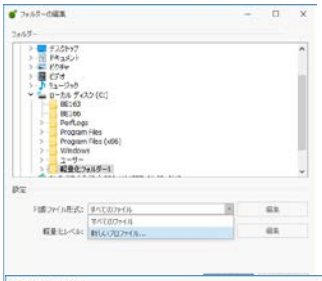
デフォルトでは無効（チェックされていない状態）です。この状態では、軽量化したファイルのタイムスタンプは元ファイルと同じ値が保持されます。「現在の日時でファイルを上書きする」を有効化すると、軽量化時の日時にてファイルのタイムスタンプが上書きされます。

3.2. プロファイル

プロファイルとは、ユーザーがカスタム定義したひとまとまりの設定のことです。「対象ファイル形式」「軽量化レベル」「スケジュール」について、プロファイルを作成することができます。
プロファイルを作成しておくと、そのプロファイルの設定値を適用して軽量化処理を実行できます。同じカテゴリのプロファイルにはすべて異なる名前を付ける必要があります。
プロファイル名には「PDF 以外のすべてのファイル形式（対象ファイル形式）」「画質よりサイズダウンを重視（軽量化レベル）」「平日夜間と週末に実行（スケジュール）」など、プロファイルの設定内容が一目でわかるような名前を付けることを推奨します。

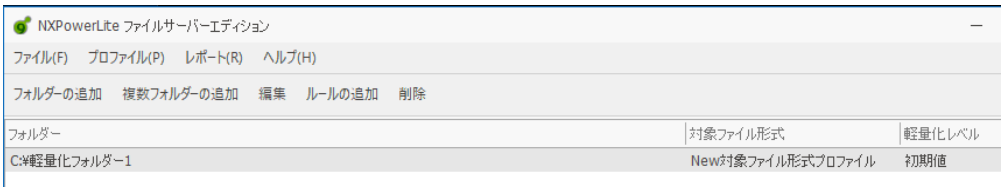
3.2.1. 対象ファイル形式





「対象ファイル形式」では、軽量化対象とするファイルの種類を設定することができます。初期設定では、サポートしているすべてのファイルの種類が軽量化対象として選択されています。この設定は軽量化対象フォルダーをダッシュボード上の軽量化対象フォルダーリストへ追加する際や、リストへ追加した後に[編集]ボタンで変更することも可能です。

1. メイン画面の[プロファイル]-[対象ファイル形式]から「追加」またはメイン画面の[編集]ボタンから[対象ファイル形式]-[新しいプロファイル...]を選択します。
2. ウィンドウの上部では軽量化対象にするファイルの種類を選択することができます。
3. ウィンドウの下部では、対象ファイルの条件を選択することができます。[次の期間内に更新されたファイルは除外する]に[90]日と設定した場合には、90 日以内に更新されたファイルを軽量化処理の対象外とします。
   この設定は「3.1.7 環境設定」内の「期間の定義」と関連しています。
4. プロファイル名を指定して「OK」を選択します。
   ※使用する際はメイン画面上の「対象ファイル形式」欄に作成したプロファイルが指定されていることを確認してください。



サポートしているファイルの種類 [1]	• Microsoft PowerPoint 97-2003 バイナリ形式 (.ppt, .pot, .pps) • Microsoft PowerPoint Open XML 形式 (.pptx, .pptm, .potx, .potm, .ppsx, .ppsm) • Microsoft Word 97-2003 バイナリ形式 (.doc, .dot) • Microsoft Word Open XML 形式 (.docx, .docm, .dotx, .dotm) • Microsoft Excel 97-2003 バイナリ形式 (.xls, .xlt) • Microsoft Excel Open XML 形式 (.xlsx, .xlsm, .xltx, .xltm) • PDF 文書 (.pdf) ※PDF のバージョンが 1.4 から 1.7 Extension Level 8 までのファイル • JPEG 画像 (.jpeg, .jpg, .jpe, .jfif, .jif, .jfi) • TIFF ファイル (.tiff, .tif) • PNG 画像 (.png) ツリービューを展開して、チェックボックスにチェックを付ける/外すことにより、軽量化対象として各ファイルの種類を有効/無効を設定できます。
ZIP 内に上記で選択したファイル形式を含む場合、軽量化する [2]	初期設定では、[対象ファイル形式]ウィンドウのツリービューで選択したファイルの種類を含む Zip ファイルを軽量化するように設定されています。Zip ファイルを軽量化しない場合には、[ZIP 内に上記で選択したファイル形式を含む場合、軽量化する]のチェックを外してください。
読み取り専用ファイルを含む	初期設定では、「読み取り専用」のファイルにも軽量化対象となっています。軽量化の対象外とするには、チェックを外してください。
更新日時またはアクセス日時による制限（初期値：7 日）	通常、ファイルサーバーにはユーザーが定期的にアクセスし、更新しているファイルが保存されています。一方、頻繁に更新はされませんが閲覧目的のために保存されているファイルもあります。この点を考慮し、NXPowerLite は軽量化対象のファイルを「ファイルの更新日時」または「ファイルのアクセス日時」を基準にして選定できます。どちらを基準にするかは「3.1.7 環境設」内の「期間の定義」で指定します。

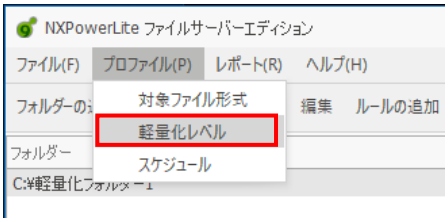
[1] KINGSOFT Office など Microsoft Office 以外のアプリケーションで作成された Microsoft Office 形式（.ppt、.pptx、.doc、.docx、.xls、.xlsx）のファイルも軽量化対象とすることはできますが、サポート対象外です。Microsoft Office で作成されたファイルのみを軽量化するよう設定するには、レジストリ値の変更が必要です。設定方法に関しては、以下の URL から Zip ファイルをダウンロード後、解凍し、「使用方法.txt」をお読みください。

https://www.nxpowerlite.jp/exe/fse/MSOfficeOnly10.zip

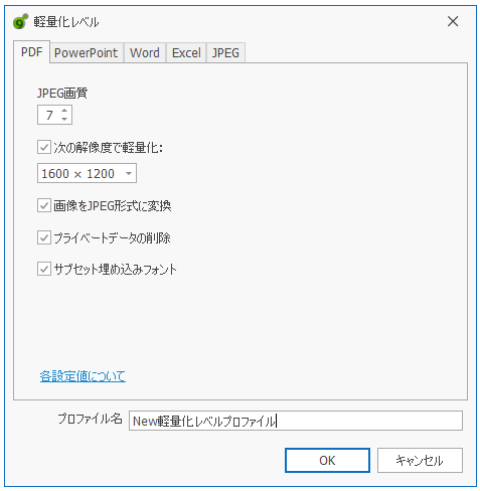
[2] 暗号化またはパスワードで保護された Office/PDF ファイルを含む Zip ファイルに対しては軽量化を行うことはできません。

3.2.2. 軽量化レベル

軽量化レベルプロファイルの初期設定は、軽量化処理実行後にファイルを開いた際、見た目を損なうことなくファイルサイズを小さくできるよう設定されています。初期設定を使用しての軽量化実行を推奨しますが、独自の設定に変更することも可能です。



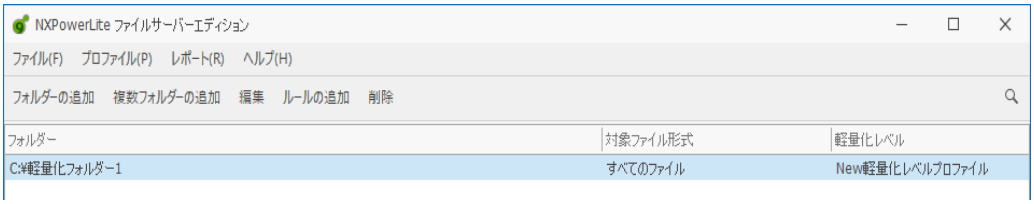
1. メイン画面の[プロファイル]-[軽量化レベル]から「追加」またはメイン画面の[編集]ボタンから[軽量化レベル]-[新しいプロファイル...]を選択します。
2. 軽量化レベルの選択を行います。※NXPowerLite デスクトップエディションの初期値と同様の設定を行う際は、以下の値を設定します。



- 【PDF】
  JPEG 画質：[7]
  次の解像度で軽量化：[1280×800]
  画像を JPEG 形式に変換：チェックを入れる
  プライベートデータの削除：チェックを入れる
  サブセット埋め込みフォント：チェックを入れる
- 【PowerPoint / Word / Excel】
  JPEG 画質：[7]
  次の解像度で軽量化：[1280×800]
  画像を JPEG 形式に変換：チェックを入れる
  画像のトリミングを許可：チェックを入れる
  埋め込まれた文書の図形化：チェックを入れる
  PNG 画像の色深度を削減：チェックを入れる
  スライドマスターの軽量化：チェックを入れる
  （※PowerPoint のみ）
- 【JPEG】
  JPEG 画質：[7]
  次の解像度で軽量化：チェックを外す
  Exif 情報の削除：チェックを外す

3. プロファイル名を指定して「OK」を選択します。

※　使用する際は、メイン画面上の「軽量化レベル」欄に作成したプロファイルが指定されていることをご確認ください。

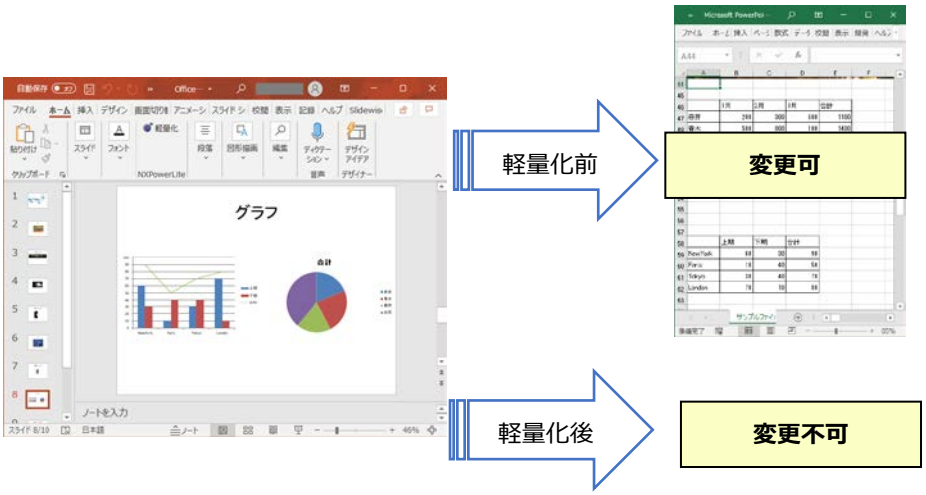


軽量化レベル項目

共通項目	
JPEG 画質	このオプションでは、JPEG 圧縮する際の画質を設定します。画質レベルを低く設定して軽量化すれば、より多くファイル容量を削減することができますが、画像が粗くなる可能性があります。また、削減できるファイル容量と見た目の画質のバランスを考慮した場合、設定を「8」にしておくことをお勧めします。詳細は、「4.4 軽量化レベルの設定による JPEG 画質レベルの比較」を参照してください。
次の解像度で軽量化：	Office ファイルには、デジタルカメラで撮られた高解像度でサイズの大きな画像が貼り付けられていることが多々あります。NXPowerLite は解像度を指定しての軽量化が可能です。ただし、フルカラー印刷、大きい用紙に対する印刷、画像の品質を維持した印刷を行いたい場合は、解像度の変更は行わない設定（チェックボックスを外した状態）で軽量化を行うことをお薦めします。
PDF・Microsoft Office のみ	
画像を JPEG 形式に変換	このオプションを無効にした場合、ファイルサイズを削減できる場合でも挿入された画像を JPEG 形式に変換しません。
PDF のみ	
プライベートデータの削除	PDF ファイルの作成や編集が可能な Adobe Acrobat、InDesign、Illustrator、Photoshop などのアプリケーションは、 ファイル内に各アプリケーション固有の編集情報を保持することができますが、ファイルサイズを大きくする可能性があります。NXPowerLite は、ファイルの見た目を損なうことなくこの編集情報を削除することができます。無効になる編集機能もありますが、各アプリケーションでの基本的な編集は可能です。
サブセット埋め込みフォント	このオプションを有効にすると、レイアウト内で使用されているフォントだけを PDF に保存します。
Microsoft PowerPoint, Word & Excel のみ	
画像のトリミングを許可	このオプションを有効にすると、トリミングツールで調整された画像を検出し、トリミングされた部分のデータを削除します。これによりファイルサイズは削減されますが、削除された画像データを復帰させることはできません。 ※DOCX と XLSX 形式のファイル内にあるトリミングされた画像は、「画像のトリミングを許可」の対象外です。
埋め込まれた文書の図形化 ※1	このオプションを有効にすると、Office ファイルに含まれるオブジェクト(Excel で作成されたグラフなど)を画像として処理します。図形変換を行うとファイルサイズは大幅に減りますが、図形変換した埋め込み文書は再編集できなくなります。

	※XLSX 形式のファイル内に埋め込まれたオブジェクトは、「埋め込まれた文書の図形化」の対象外です。
PNG 画像の色深度を削減	このオプションを有効にすると、挿入された PNG 画像の色数を適切なレベルまで減らします。
Microsoft PowerPoint のみ	
スライドマスターの軽量化	このオプションはスライドマスターに含まれる画像を軽量化するかどうか選択することができます。このオプションが有効の場合、PowerPoint 内の全ての画像が軽量化されます。このオプションが無効の場合、スライドマスターに含まれる画像の軽量化は行われません。 ※このオプションは Office Open XML 形式のファイルに対してのみ有効です。
Microsoft Word のみ	
Word2007 との互換性を削除する	Microsoft Office 2013 以降の Word で作成されたファイルには、Word2007 以下のバージョンとの互換性を保つためのメタデータが保持されています。このオプションを有効にすると、その互換用メタデータを削除することでファイルをより軽量化することができます。 互換用メタデータが削除された Word ファイルは、Word2007 以下のバージョンのアプリケーションで開くことはできなくなります。
Microsoft Excel のみ	
余分なセルの書式の削除	このオプションを有効にすると、データを持たないセルに設定されている書式情報が削除されます。
JPEG のみ	
Exif 情報の削除	JPEG 画像は通常、Exif 情報(カメラのモデルや設定情報など)を保持しています。初期設定では、Exif 情報は削除されず維持されたままになります。このオプションを有効にした場合、軽量化実行時に JPEG 画像から Exif 情報を削除します。

※1 例えば、図表を含む Excel シートが埋め込まれた PowerPoint 文書は、その図表をダブルクリックすることにより、Excel 上で編集することができます。軽量化によりファイル内の埋め込まれた文書が図形化された場合には、再度図表をダブルクリックしても Excel で編集することができません。なお、オプションが有効な場合でもファイルの完全性を保つために埋め込まれた文書を図形化しないことがあります。
埋め込まれた文書の図形化を実行した場合、軽量化後の結果画面に、ファイル名とともにメッセージが表示されます。
埋め込まれた文書の図形化を実行したくない場合は、軽量化レベルの設定でこのオプションを無効にしてください。



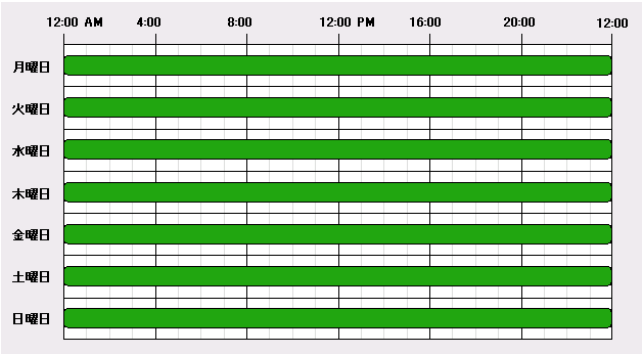
3.2.3. スケジュール

NXPowerLite ファイルサーバーエディションは、初期状態ではスケジュールが設定されていません。シミュレーションモードを実行した場合、ジョブが完了するまで処理は停止しません。また、軽量化モードで繰り返し実行の場合は、処理の実行後は既定の期間が経過するまでは処理が一時停止した状態になります。

たとえば、軽量化対象フォルダー内のファイルを多数のユーザーが閲覧している時間帯や、バックアップツールが実行される時間帯に NXPowerLite を実行することはお勧めできません。それらを避けるためには夜間や週末など、ユーザーやサードパーティアプリケーションプロセスによるファイルアクセスが発生しにくい時間帯に処理を実行する必要があります。このような場合、日付と時間を指定してジョブを開始するよう、スケジュールの設定をすることをお勧めします。

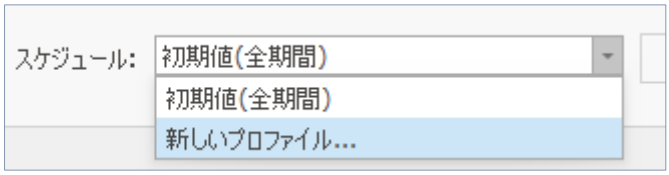
【スケジュールの初期値：「初期値（全期間）」】
この設定を使用した場合、軽量化は 24 時間 365 日いつでも実行可能であり、「開始」ボタンを押した時点から軽量化処理が始まります。

▼軽量化実行時間（イメージ）

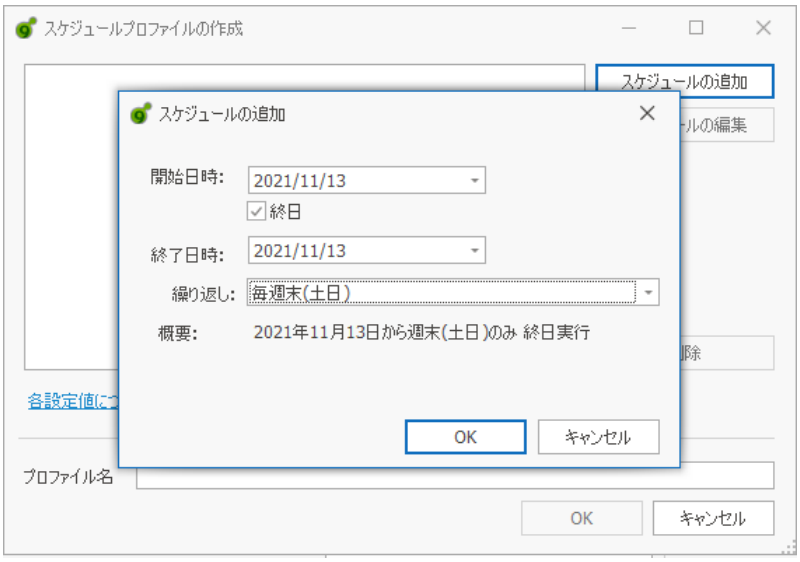


【土日のみ軽量化の実行を行う場合】

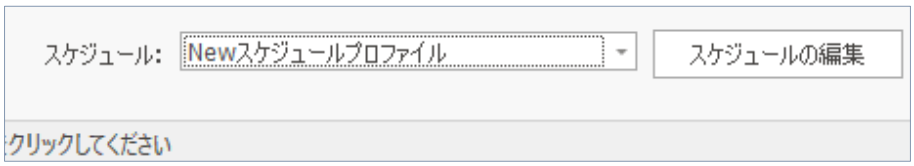
1. メイン画面のスケジュール欄から「新しいプロファイル...」を選択します。



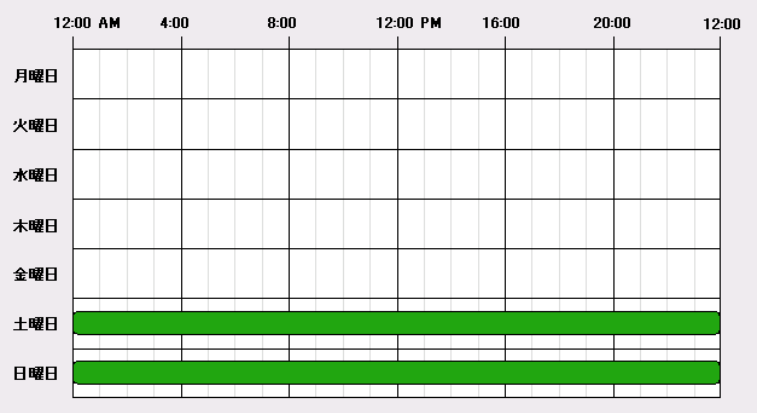
2. 「スケジュールの追加」をクリックして、[開始日時]で土曜または日曜を選選択し、[終了日時]に開始日と同じ日付を選択し、「終日」にチェックを入れ、[繰り返し：]で「毎週末（土日）」を選択して「OK」をクリックします。



3. プロファイル名を指定して「OK」をクリックします。
4. メイン画面上で指定したプロファイルが選択されていることを確認します。

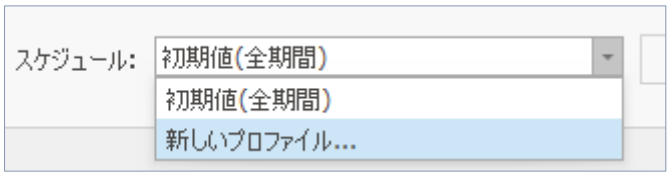


▼軽量化実行時間（イメージ）

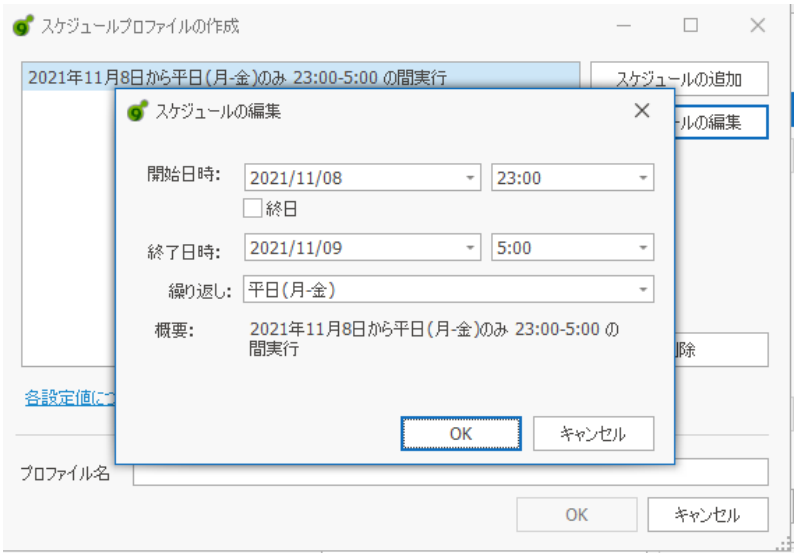


【平日の夜間のみ軽量化の実行を行う場合】

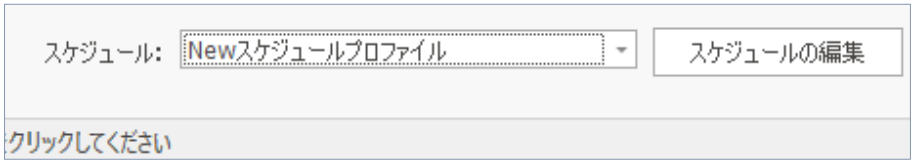
1. メイン画面のスケジュール欄から「新しいプロファイル...」を選択します。



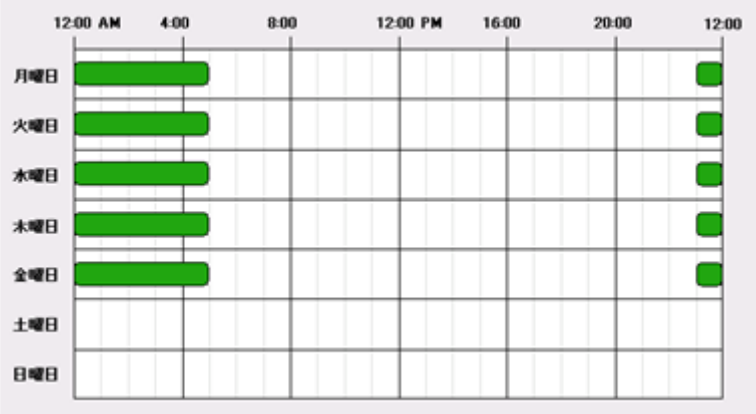
2. 「スケジュールの追加」をクリックして、[開始日時]で平日および時刻を選択し、[終了日時]に開始日と同じ日の時刻もしくは、開始日時の翌日(月曜日の 23 時開始であれば火曜日の 5 時など）を設定し[繰り返し：]で「平日（月-金）」を選択して「OK」をクリックします。



3. プロファイル名を指定して「OK」をクリックして、メイン画面上で指定したプロファイルが選択されていることを確認します。

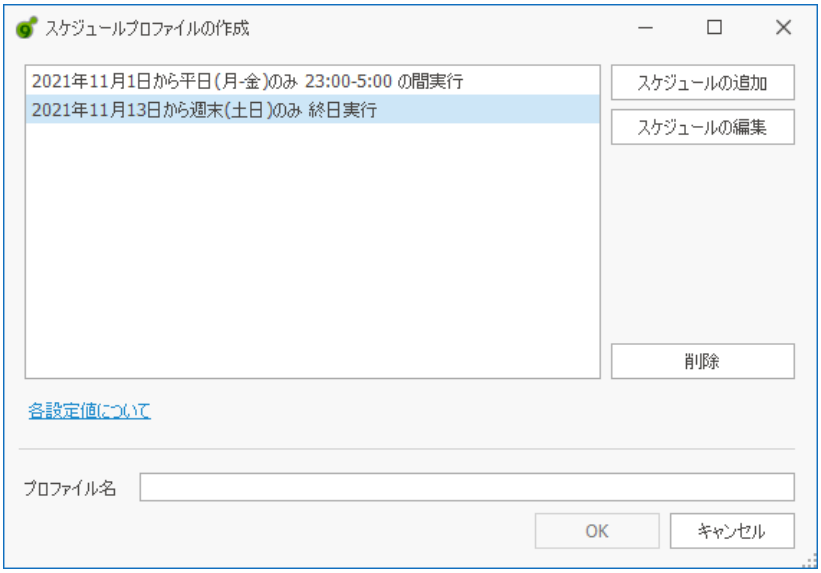


▼軽量化実行時間（イメージ）



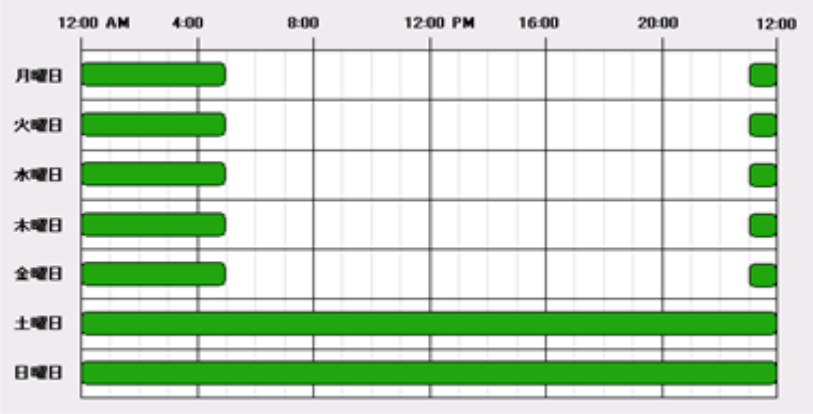
【平日の夜間および土日のみ軽量化の実行を行う場合】

1. スケジュール欄から「新しいプロファイル...」を選択します。
2. 「スケジュールの追加」をクリックして、[開始日時]で平日および時刻を選択し、[終了日時]に開始日と同じ日の時刻もしくは、開始日時の翌日(月曜日の 23 時開始であれば火曜日の 5 時など）を設定し、[繰り返し：]で「平日（月-金）」を選択して「OK」をクリックします。



3. 「スケジュールの追加」をクリックして、[開始日時]で土曜または日曜を選択し、[終了日時]に開始日と同じ日付を選択し、「終日」にチェックを入れ、[繰り返し：]で「毎週末（土日）」を選択して「OK」をクリックします。
4. プロファイル名を指定して「OK」をクリックして、メイン画面上で指定したプロファイルが選択されていることを確認します。

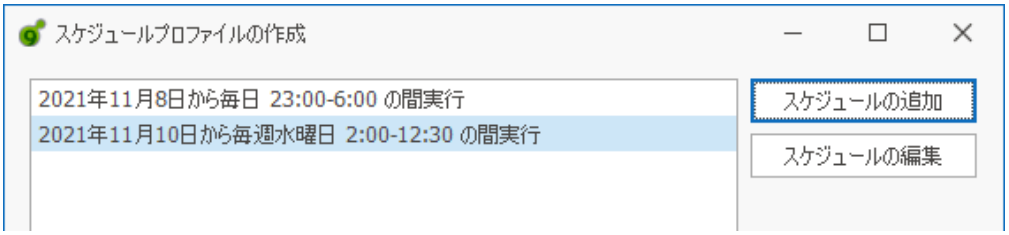
▼軽量化実行時間（イメージ）



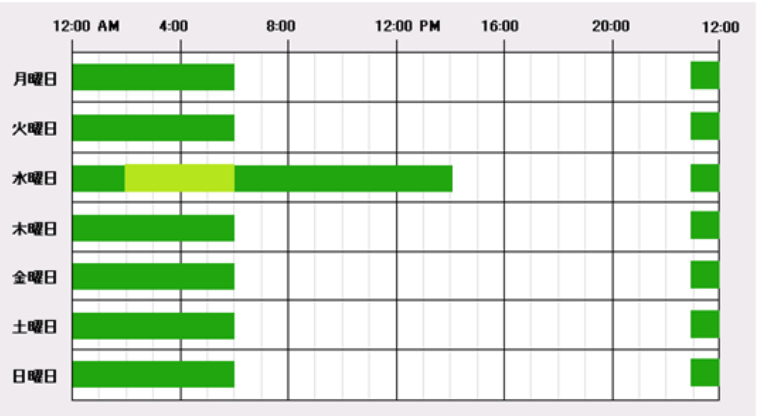
【重複したスケジュールついて】

以下の重複した時間帯が生じるような条件スケジュールを組んだ場合

1. 毎日 23:00 – (翌)6:00 の間実行
2. 毎週水曜 2:00 - 14:00 の間実行



毎週水曜日のみ途中で一時停止することなく、14:00 まで実行されます。



NXPowerLite は、Windows のシステム時計やタイムゾーンが変更された場合、変更された時間に合わせてスケジュールも自動調整します。

3.3. レポート

NXPowerLite ファイルサーバーエディションでは、指定したフォルダーパスに対する軽量化処理の結果レポートを生成します。

▼サンプル（現在実行中のレポート）

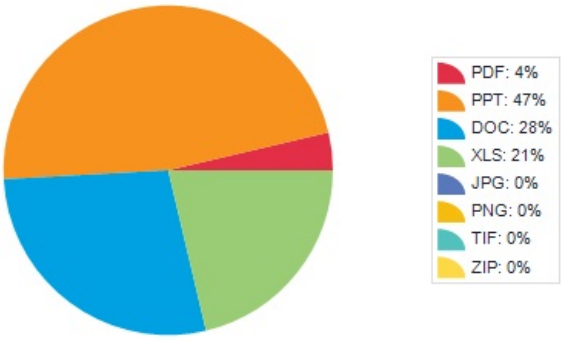
軽量化モード レポート

nxpowerlite

バージョン:	10.3.1
レポート作成日	02 4月 2025 15:28:57

ファイル形式ごとの削減容量

ファイル形式	削減容量
PDF	7 MB
PPT	93 MB
DOC	55 MB
XLS	42 MB
JPG	--
PNG	--
TIF	--
ZIP	--
合計	198 MB



実行履歴(1ヶ月以内)

日付	処理時間	軽量化済みファイル数	削減容量
02 4月 2025	00:00:07	0	--
01 4月 2025	00:00:51	13	102 MB
28 3月 2025	00:00:01	0	--
21 3月 2025	00:00:27	6	96 MB
合計	00:01:26	19	198 MB

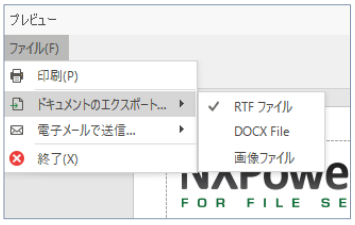
設定内容

フォルダー	ファイル形式	軽量化レベルの設定
C:\軽量化フォルダー	すべてのファイル	初期値
C:\軽量化フォルダー\subfolder	PDFOnly	初期値

シミュレーションのレポート	
「シミュレーションのレポート」は、シミュレーションモード実行時のジョブの完了またはユーザーによってジョブが停止された際に生成されます。レポートには、現在の設定で軽量化処理を実行した場合の削減容量(予想)などの詳細な情報が出力されます。	
一回のみ実行のレポート	
「一回のみ実行のレポート」は、シリアルナンバー登録後に軽量化処理を一回のみ実行した際に生成されます。現在の設定で軽量化処理を実行した場合の削減容量などの詳細な情報が出力されます。	
削減容量	このセクションには、軽量化モードを実行した際の削減容量が、軽量化前/後のファイルサイズとともに表示されます(シミュレーションモードの場合、削減容量の予想が表示されます)。
サポート対象のファイル	対象ファイル形式別の削減容量を表示します。軽量化後のファイルサイズと削減容量は目安です。
ファイル容量	処理対象のフォルダーパス内に含まれているファイルのうち、サポート対象のファイルとサポート対象外のファイルそれぞれのサイズを数字と円グラフで示しています。
スキップされたサポート対象ファイル	サポートされた対象ファイル形式であるにも関わらず、軽量化対象外としてスキップされた理由を表示します。詳細は、4.7 をご参照ください。
サポート対象外のファイル	軽量化対象フォルダー内に NXPowerLite がもともと軽量化できない拡張子(.wmv, .txt など)のファイルが含まれていた場合に表示されます。
設定内容	軽量化対象のフォルダーパスと、その「対象ファイル」「軽量化レベル」の指定値が表示されます。
現在実行中のレポート	
「現在実行中のレポート」は NXPowerLite ファイルサーバーエディションを使用して削減できたディスク容量の概要を表示します。また、現在実行中のレポートはシリアルナンバー登録後すぐに生成可能になり、軽量化処理実行の最新情報を表示します。レポート内に表示される内容は以下のとおりです。	
ファイル形式ごとの削減容量	このセクションは、ファイル形式ごとの削減容量を表示します。
実行履歴(1 ヶ月以内)	このセクションは、1 ヶ月以内に軽量化処理を実行した履歴の一覧です。実行日付、処理時間、軽量化済みファイル数、削減容量を日ごとに表示します。
設定内容	軽量化対象のフォルダーパスと、その「対象ファイル」「軽量化レベル」の指定値が表示されます。

レポートは RTF、DOCX、PNG 形式のエクスポート、および電子メールへの添付が可能です。

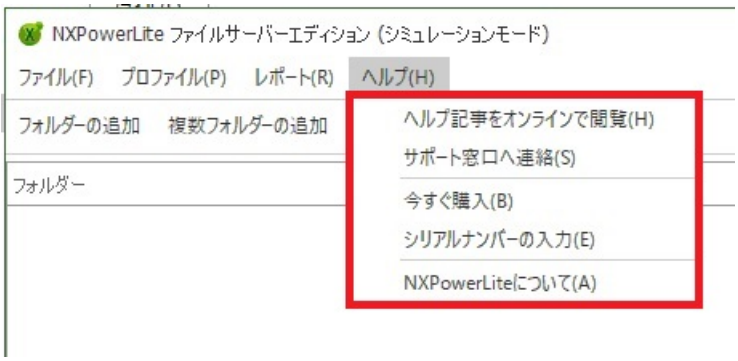
※　Arial Unicode MS フォントがインストールされたマシン上では、エクスポート形式から「PDF ファイル」が選択できます。



※　現在 PNG 形式のエクスポートでは「このファイルを開きますか？」のダイアログで「はい」を選択してもファイルを開けません。エクスプローラーを使用してエクスポート先のフォルダーを参照してください。

3.4. ヘルプ

「ヘルプ」メニューは、シミュレーションモードと軽量化モードで内容が異なります。



ヘルプ記事をオンラインで閲覧	NXPowerLite のよくあるお問い合わせページに誘導します。
サポート窓口へ連絡	サポート問い合わせフォームに誘導します。 ※テクニカルサポートのお問い合わせにあたっては、保守サポート契約番号の提示が必要です。
今すぐ購入 **※シミュレーションモードのみ**	ブラウザ上で NXPowerLite の価格表ページを開きます。 ▼価格表 https://www.nxpowerlite.jp/store/
シリアルナンバーの入力 **※シミュレーションモードのみ**	NXPowerLite を製品版として利用するために必要なシリアルナンバーの入力画面を表示します。シリアルナンバー登録の詳細については、2.2 をご参照ください。
NXPowerLite について	バージョン情報、著作権表示、ライセンス表示(製品のライセンス契約)が確認できるウィンドウを表示します。 軽量化モードの場合は上記に加え、登録ユーザー、シリアルナンバーの情報も表示されます。

3.5. アクセス制限やサーバー上のフォルダーを軽量化する

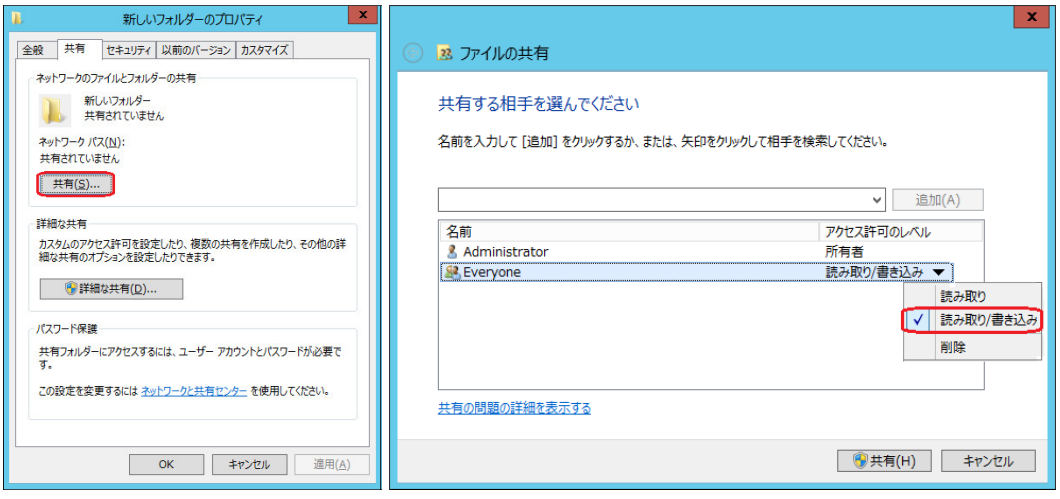
NXPowerLite ファイルサーバーエディションが指定フォルダー内のファイルを圧縮したり、その効果をシミュレーションするためには、NXPowerLite のサービスを実行するアカウントが対象フォルダーへの「読み取り/書き込み」権限を持っている必要があります。 例として、Windows では「共有フォルダーのアクセス権」「ファイルシステムのアクセス権（NTFS の場合）」がこれに当たります。
ローカル上のアクセス制限が行われているフォルダーや、ファイルサーバー上のフォルダーを軽量化するためには、本項目および 3.1.4 の設定が必要になります（ファイルサーバー上のフォルダーが実行アカウントと同じドメインにない場合は、3.6 の設定も必要になります）。

3.5.1. 共有フォルダーのアクセス権設定

以下 A,B のいずれかを設定ください。

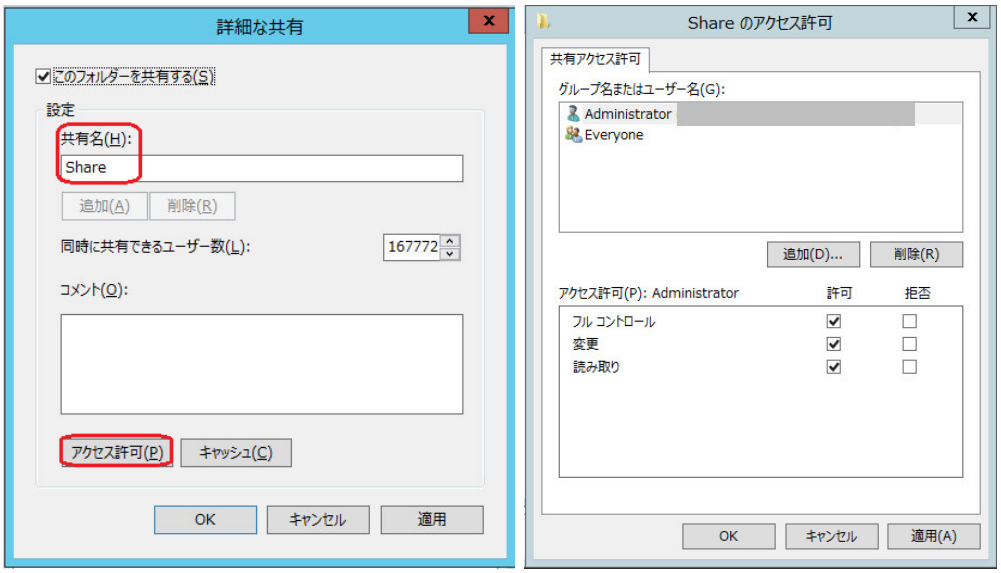
【A. ネットワークのファイルとフォルダーの共有】

1. 対象フォルダーを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
2. [共有]タブ内の「ネットワークのファイルとフォルダーの共有」枠内の、[共有]をクリックします。
3. ファイルの共有画面から、NXPowerLite を実行するサービスのユーザーアカウントを追加します。
4. 追加後は「アクセス許可レベル」を[読み取り/書き込み]に変更します。



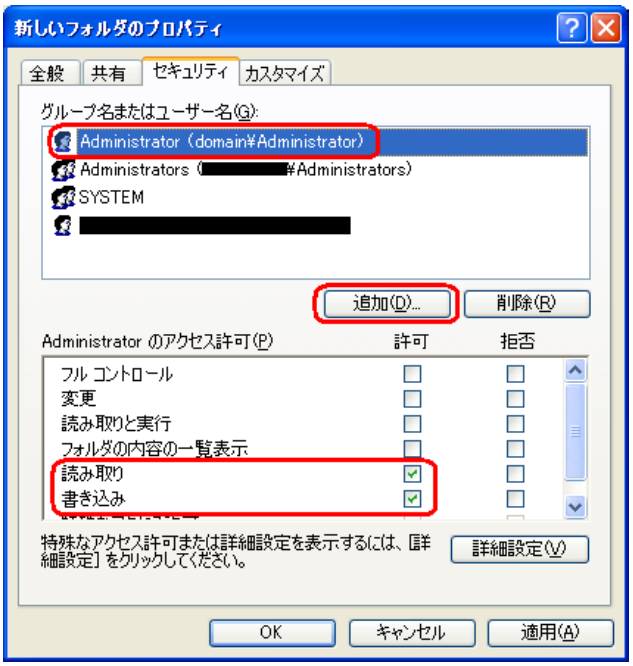
【B. 詳細な共有】

1. 対象フォルダーを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
2. [共有]タブ内の[詳細な共有]を選択します。
3. [このフォルダーを共有]にチェックを入れ、[アクセス許可]をクリックします。
4. 「アクセス許可画面」にて[追加]をクリックして、 NXPowerLite を実行するサービスのユーザーアカウントを指定します。
5. [変更]もしくは[フルコントロール]にチェックを入れて、[OK]をクリックします。
   ※可能であればフルコントロールにチェックを入れてください。
6. 「詳細な共有」ダイアログ上でも[OK]をクリックします。



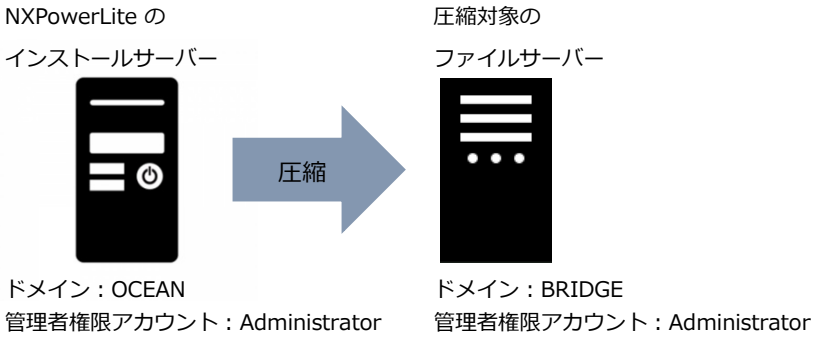
3.5.2. ファイルシステムのアクセス権設定（NTFS の場合）

1. 対象フォルダーを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
2. [セキュリティ]タブ内の[追加]をクリックします。
3. 「ユーザー、コンピュータまたはグループの選択」から NXPowerLite を実行するユーザーアカウントを選択します。
4. 許可欄の[読み取り][書き込み]にチェックを入れます（[フルコントロール]にチェックを入れると、自動的に読み取り、書き込み両方のチェックが入ります）。

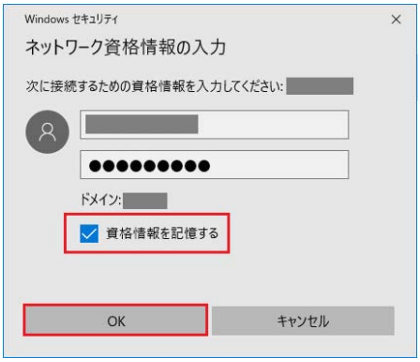


3.6. ネットワーク上の別ドメインのフォルダーを軽量化する

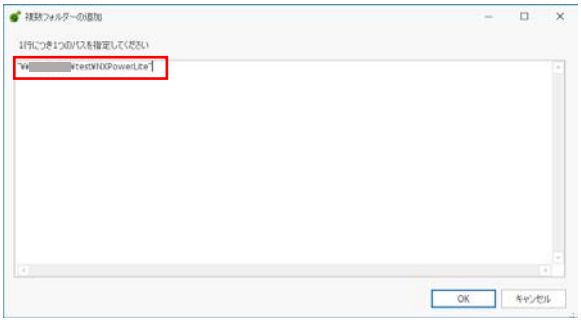
NXPowerLite ファイルサーバーエディションのインストール端末とは異なるドメインに属するファイルサーバー上のフォルダーを軽量化する場合、インストール端末上で Windows のエクスプローラーを開き、対象のファイルサーバーのドメインの資格情報を記憶させる必要があります。



1. NXPowerLite ファイルサーバーエディションのインストール端末に管理者権限アカウントでログインします（例：OCEAN¥Administrator）。
2. インストール端末上で Windows のエクスプローラーを開き、アドレスバーに圧縮対象のフォルダー名を入力します。
3. 資格情報の入力画面が表示されたら、圧縮対象フォルダーが属するドメインのアカウント情報を入力します（例：BRIDGE¥Administrator）
4. 右図のように「資格情報を記憶する」にチェックを入れ、[OK]をクリックします。
   ※資格情報マネージャーに情報を記憶させます。



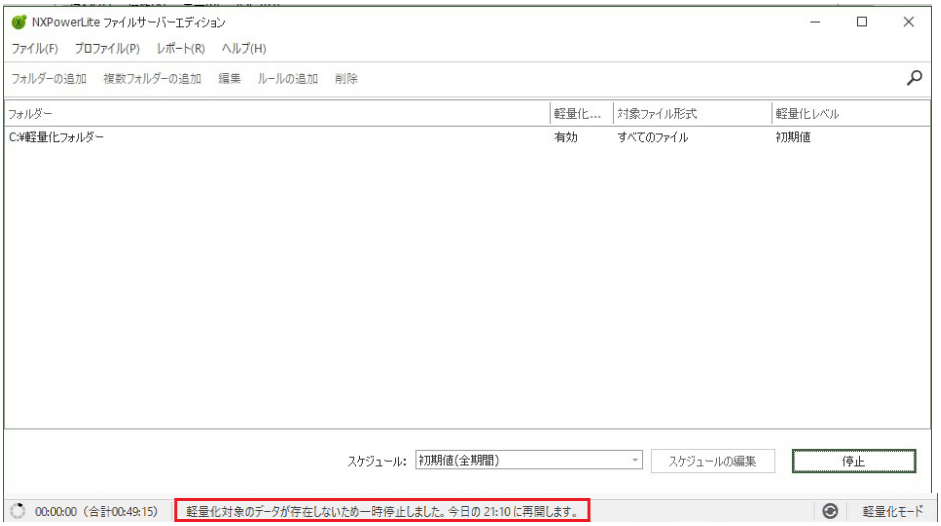
5. NXPowerLite ファイルサーバーエディションを起動して、[ファイル]-[複数フォルダーの追加（M）]を選択し、別ドメインの圧縮対象フォルダーの UNC パスを入力します。



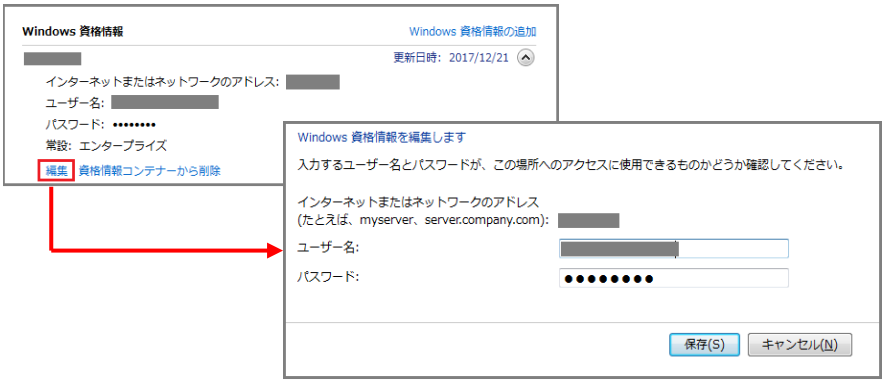
6. NXPowerLite ファイルサーバーエディションの Windows サービスに手順 1 でログインした管理者アカウントを設定します（例：OCEAN¥Administrator）。

圧縮の実行中にファイルサーバーへの資格情報が変更された場合

圧縮対象のファイルサーバーへの資格情報が圧縮中に変更された場合、即座に圧縮処理が停止することはありませんが、処理が完了するまでに資格情報マネージャーに記憶されている情報を更新する必要があります（処理が完了していると「軽量化対象のデータが存在しないため一時停止しました。」というメッセージが表示されます）。



1. Windows の[コントロールパネル]-[ユーザーアカウント]-[資格情報マネージャー]を開きます。
2. [Windows 資格情報]をクリックします。
3. 対象の Windows 資格情報にある[編集]をクリックし、新しい情報を入力して保存します。



3.7. 外部コマンドによるプログラム実行

軽量化レベルの設定など軽量化対象フォルダーへの軽量化設定完了後、UI 画面を使用せずに NXPowerLite ファイルサーバーエディションを実行することが可能です。例えば、ファイルバックアップソフトの実行完了後に再開始したい場合(ファイルのバックアップソフトの実行時間と NXPowerLite の実行時間が重なるのを防ぐため)などに使用します。

NXPowerLite ファイルサーバーエディションは Windows の「NXPowerLite File Server」サービスを使用してすべての処理を行っています。したがって、コマンドプロンプトから SC コマンドを使用して「NXPowerLite File Server」サービスの操作(一時停止および再開始)を行うことができます。ただし、「pause」および「continue」コマンドのみ使用可能です。

NXPowerLite を一時停止したい場合は、以下のコマンドを入力しスクリプトを実行します。
sc pause "NXPowerLite File Server"

NXPowerLite の一時停止後に再開始したい場合は、以下のコマンドを入力しスクリプトを実行します。
sc continue "NXPowerLite File Server"

> ダッシュボード上でスケジュールが設定されている場合、「continue」コマンドを実行してもすぐに再開始しません。設定されているスケジュールが常に優先されます。スケジュール設定により一時停止している場合、「continue」コマンドを実行しても次の再開始時間まで処理は実行されません。

4.その他

4.1. ファイル軽量化の仕組み

NXPowerLite は、下記に挙げたファイル内のデータを削除/圧縮することでファイルサイズの削減を行います。

PowerPoint、Word、Excel

- 不必要なメタデータの削除
- 「高速保存」情報の削除
- 貼り付けられた画像を最適なデータ形式に変換
- 画像の JPEG 圧縮
- 貼り付けられた画像を最適な解像度へ変換 (オプション)
- トリミングした部分の画像情報を削除 (オプション)
- 埋め込まれた文書の図形化 (オプション)
- 余分なセルに付加された書式情報を削除（オプション）

PDF (PDF、PDF/A、PDF/X、PDF/E、PDF/UA、PDF/VT)

- 貼り付けられた画像を最適なデータ形式に変換
- 画像の JPEG 圧縮
- 貼り付けられた画像を最適な解像度へ変換 (オプション)
- トリミングした部分の画像情報を削除 (オプション)
- プライベートデータを削除 (オプション)
- フォントの埋め込み（オプション）

JPEG

- JPEG 圧縮
- EXIF データの削除（オプション）

TIFF

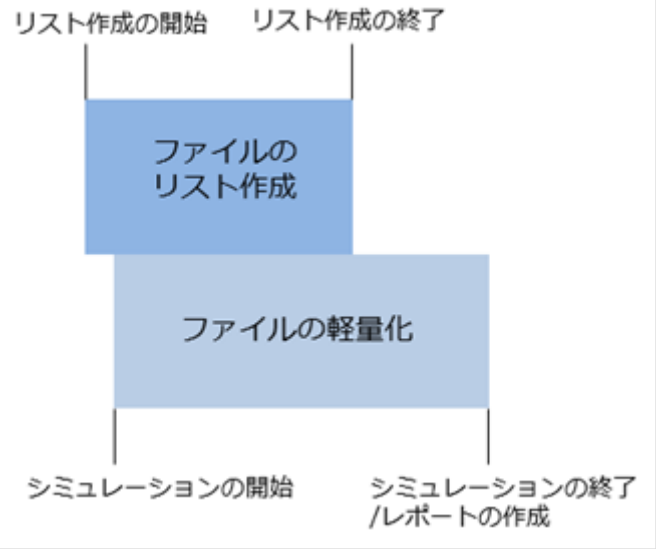
- LZW 圧縮を使用して TIFF ファイル内の非圧縮画像を軽量化
- マルチページ TIFF ファイルに対しても LZW 圧縮を使用して非圧縮ページを軽量化

Zip ファイルの処理時は、一度 Zip ファイルを一時領域上で展開して上記方法で軽量化し、再度 Zip 圧縮され元のファイルに上書きされます。

4.2. シミュレーションモードについて

製品版購入前は、シミュレーションモードのみ使用できます。シミュレーションモードでは一時領域を使用して実際にファイルの軽量化処理を行いますが、原本ファイルには一切の変更を加えません。削減容量を算出した詳細なレポートから効果をご確認することができます。NXPowerLite では、軽量化実行後でも見た目の画質にほとんど影響なくファイルを軽量化し、かつディスク容量の大幅な削減が実現できるよう、軽量化レベルの初期値が設定されています。
実際に原本ファイルのサイズを削減するには、製品版購入後に送られてくるシリアルナンバーを入力して軽量化モードを有効にする必要があります。

以下の図は、シミュレーションモードでのジョブの開始と実行の流れを表します。ジョブを開始すると、軽量化対象とするファイルのリスト作成が開始され、その終了を待たずに軽量化のシミュレーションも開始されます。ファイルのリスト作成と軽量化のシミュレーションを並行して行うことで、ジョブの実行時間を短縮しています。

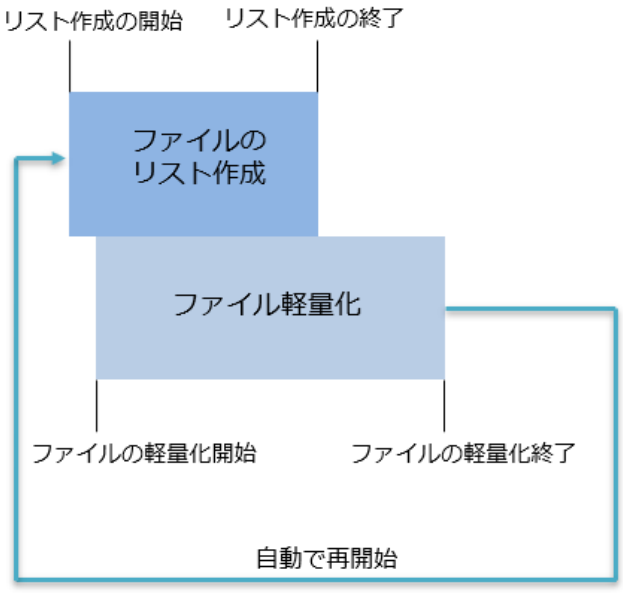


4.3. 軽量化モードについて

製品版購入後に送られてくるシリアルナンバーを入力すると、軽量化モードが有効になります。軽量化モードを実行すると、NXPowerLite は原本ファイルを一時領域上で軽量化し、その結果ファイルを原本ファイルに上書きしてディスク容量を削減します。**仕様上、不可逆圧縮を使用しておりますので、軽量化の際にファイル内で圧縮された情報は失われ、元に戻すことは出来ません。**軽量化後に見た目の画質に影響なくファイルを圧縮できるよう初期値が設定されてはいますが、念のため事前にテストを行い、確認をしてから軽量化モードを実行してください。

軽量化モードでは、「1 回のみ実行」と「繰り返し実行」の 2 種類のモードが選べます。「繰り返し実行」の場合、最初のスキャン時に軽量化対象として判断されたファイルの処理がすべて完了した後、一定期間経過後に処理を再開始します。つまり、軽量化対象フォルダーとして設定したフォルダーに対して、設定を変更するまでは軽量化処理を繰り返します。ただし、対象フォルダー内に新しいファイルの追加がない場合や、既存ファイルに対しての更新が行われなかった等、新規軽量化の対象となるファイルがフォルダー内に存在しなかった場合、もしくは軽量化前ファイルサイズの合計と軽量化後のファイルサイズの合計のサイズ差が 5%未満だった場合は一定期間処理を停止します。再開した際に軽量化対象ファイルがフォルダー内に存在しなかった場合は再び一時停止し、停止時間の経過後に処理を再開します。

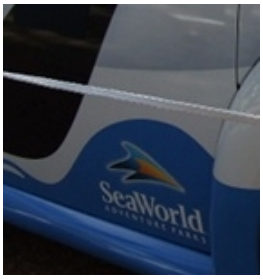
以下の図は、軽量化モードでのジョブの開始と実行を表します。ジョブを開始すると、まずはすべての軽量化対象ファイルをスキャンし、内部的に使用するリストを作成する作業が開始されます。その終了を待たずに、平行して軽量化処理も開始されます。ファイルのリスト作成と軽量化を並行して行うことで、ジョブの実行時間を短縮しています。



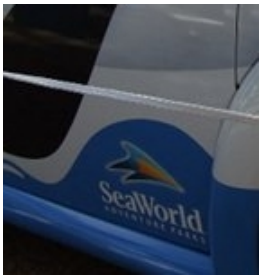
4.4. 軽量化レベルの設定による JPEG 画質レベルの比較

軽量化レベルの「JPEG 画質」オプションでは、JPEG 圧縮する際の画質を設定することができます。画質レベルを低く設定して軽量化すれば、より多くファイル容量を削減することができますが、画像が粗くなる可能性があります。以下の表は、各画質レベルで軽量化した際の画像例、およびファイルサイズと軽量化率の結果となります。結果は軽量化する画像によっても異なりますので、こちらの情報はあくまで目安としてください。

軽量化前の画像



JPEG 画質：9



JPEG 画質：8

JPEG 画質：7

JPEG 画質：6

JPEG 画質：5

JPEG 画質：4

JPEG 画質：3

JPEG 画質：2

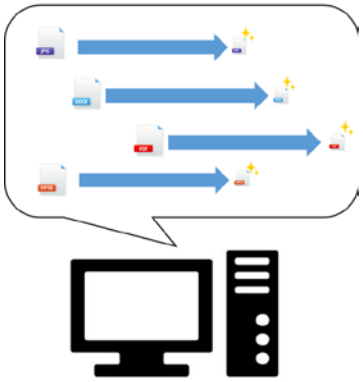
JPEG 画質：1

ご覧のとおり、JPEG 画像に対して軽量化する際に推奨する初期値の「8」(Office ファイル内の JPEG 画像に対しては「7」が推奨する値です)で軽量化したファイルは、原本ファイルの 23%に軽量化されたにも関わらず表示や印刷には必要十分な画質となっています。

JPEG 画質	ファイルサイズ(KB)	軽量化後のファイル容量(%)
軽量化前	494	
9	207	41
8	117	23
7	90	18
6	76	15
5	66	13
4	59	12
3	52	11
2	44	9
1	34	7

JPEG 画像に対しての軽量化率

4.5. マルチスレッド処理による処理時間の違い

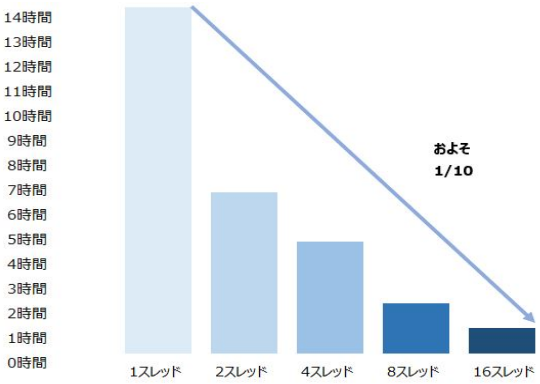


バージョン 7.1.16 よりマルチスレッド処理に対応したことにより、軽量化処理を同時並行させることが可能になりました。スレッド数を変更することで、処理時間・CPU 使用率を調整することが可能です（初期値：2 スレッド）。

スレッド数毎の処理時間の目安は下記の通りです：

OS：Windows Server 2022 Datacenter
vCPU：2.60 GHz（コア数：16）
メモリ：64 GB
ストレージ：HDD
ファイル数：30,000（総サイズ：100GB）　の場合

処理に使用するスレッド数	平均軽量化時間
1	約 14 時間 3 分
2（初期値）	約 7 時間 13 分
4	約 5 時間 42 分
8	約 2 時間 4 分
16	約 1 時間 15 分



本書に記載の測定データ（軽量化処理時間、軽量化率）は参考値であり、製品の性能を保証するものではありません。マシンスペックやご利用の環境により処理結果は異なりますのでご了承ください。
※製品をご購入いただく前に、必ず体験版にて実感今日での動作および性能をご確認ください。

4.5.1. ローカル/リモートの測定結果

ファイルサーバー上(ローカル)で軽量化を実行した場合（初期値：2 スレッド）

		初回実行（全ファイルを軽量化）				2 回目実行（差分処理）			
ファイル形式		**圧縮前**	**圧縮後**	**軽量化率**	**処理時間**	**圧縮前**	**圧縮後**	**軽量化率**	**処理時間**
Office	Word	15GB	4GB	73%	-	4GB	4GB	0%	-
	Excel	37GB	8GB	78%	-	8GB	8GB	0%	-
	PPT	50GB	6GB	88%	-	6GB	6GB	0%	-
	合計	103GB	17GB	83%	**7 時間 12 分**	17GB	17GB	0%	**12 分**
JPEG		102GB	12GB	88%	**2 時間 41 分**	12GB	12GB	0%	**10 分**
PDF		103GB	33GB	68%	**6 時間 35 分**	33GB	33GB	0%	**12 分**

ネットワーク上のサーバーに対して軽量化を実行した場合（初期値：2 スレッド）

		初回実行（全ファイルを軽量化）				2 回目実行（差分処理）			
ファイル形式		**圧縮前**	**圧縮後**	**軽量化率**	**処理時間**	**圧縮前**	**圧縮後**	**軽量化率**	**処理時間**
Office	Word	15GB	4GB	73%	-	4GB	4GB	0%	-
	Excel	37GB	8GB	78%	-	8GB	8GB	0%	-
	PPT	50GB	6GB	88%	-	6GB	6GB	0%	-
	合計	103GB	17GB	83%	**7 時間 11 分**	17GB	17GB	0%	**1 時間 9 分**
JPEG		102GB	12GB	88%	**3 時間 20 分**	12GB	12GB	0%	**28 分**
PDF		103GB	33GB	66%	**4 時間 38 分**	33GB	33GB	0%	**1 時間 3 分**

【検証マシンスペック】

- OS ： Windows Sever 2022, Datacenter
- CPU： Intel Xeon CPU E3-1220v6 3.00GHz （4 コア）
- メモリ： 16.0 GB

【検証に使用したサンプルファイル】

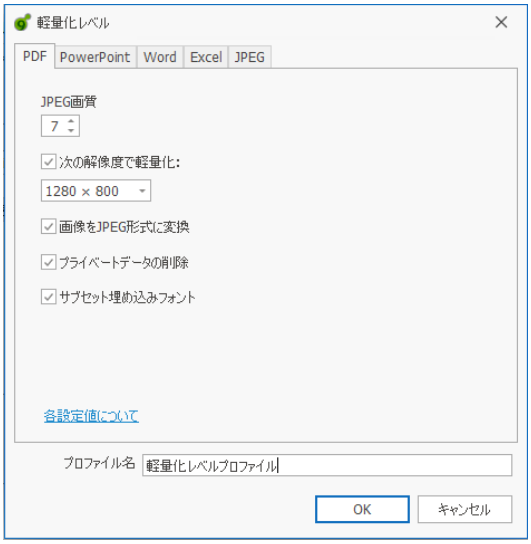
① Microsoft Office ファイル （合計 約 100GB）
Office 2000、XP、2003、2007、2010、2016 で作成された Word、Excel、PowerPoint ファイル（.doc、.docx、xls、xlsx、ppt、pptx）

② JPEG ファイル （合計 約 100GB）
デジタルカメラ、携帯電話のカメラで撮影した画像ファイル
（例： 画像サイズ 2816 x 2112、画像サイズ 1536 x 2048 など）

③ PDF ファイル （合計 約 100GB）

【軽量化レベル（軽量化モード）】

※NXPowerLite デスクトップエディションの標準圧縮と同様に変更



- 【PDF】

  JPEG 画質：[7]

  次の解像度で軽量化：[1280×800]

  画像を JPEG 形式に変換：チェックを入れる

  プライベートデータの削除：チェックを入れる

  サブセット埋め込みフォント：チェックを入れる

- 【PowerPoint / Word / Excel】

  JPEG 画質：[7]

  次の解像度で軽量化：[1280×800]

  画像を JPEG 形式に変換：チェックを入れる

  画像のトリミングを許可：チェックを入れる

  埋め込まれた文書の図形化：チェックを入れる

  PNG 画像の色深度を削減：チェックを入れる

  スライドマスターの軽量化：チェックを入れる（※PowerPoint のみ）

  Word2007 との互換性を削除する：チェックを入れる (※Word のみ)

  余分なセルの書式の削除：チェックを入れる(※Excel のみ)

- 【JPEG】

  JPEG 画質：[7]

  次の解像度で軽量化：[1280×800]

  Exif 情報の削除：チェックを外す

> 軽量化レベルの設定値による処理時間の差異について
>
> 軽量化レベルの設定値により、処理時間が変わる場合があります。（軽量化率の高さに比例して処理時間が長くなるわけではありません）

参考：ファイルコピーにかかる時間について

	例1	例2	例3
ファイル数	76,909	46,736	34,800
軽量化前のコピー時間（ファイルサイズ）	7時間10分 （100 GB）	3時間29分 （100 GB）	4時間39分 （100 GB）
軽量化後のコピー時間（ファイルサイズ）	6時間4分 （70 GB）	1時間21分 （20 GB）	2時間45分 （33 GB）
コピー時間短縮率（軽量化率）	15 % （30 %）	61 % （80 %）	41 % （67 %）

- コピー元
  - Dell： PowerEdge T110 タワーサーバー（Windows Sever 2012 R2, Datacenter）
  - インターフェース(LAN 端子) ： 1Gbps 対応
- コピー対象

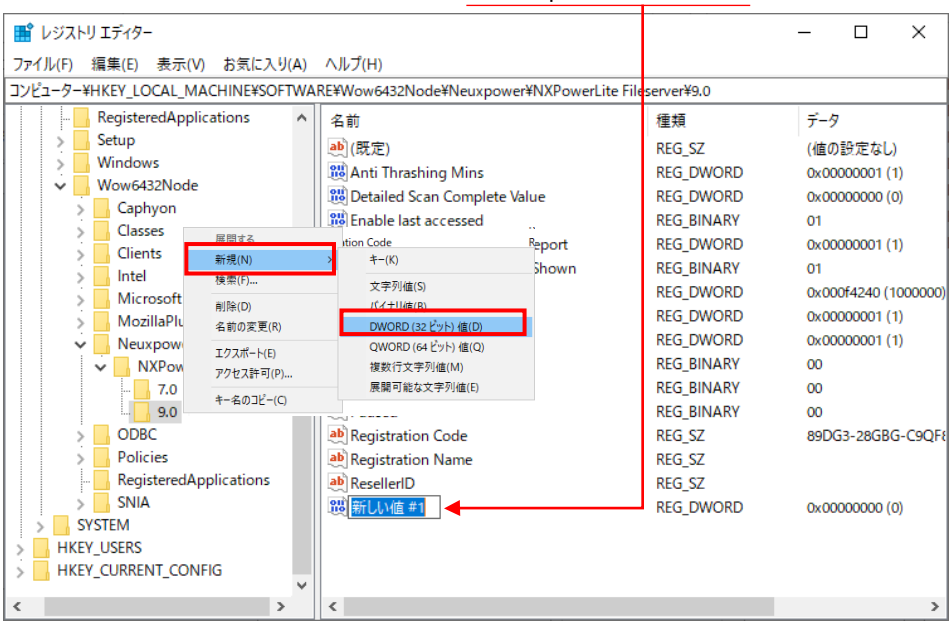
- IO DATA：LAN DISK HDL2-H4/TM3
- インターフェース(LAN 端子) ： 1Gbps 対応

• 使用したネットワーク機器
- ルータ： 1Gbps 対応
- ハブ ： 1Gbps 対応
- LAN ケーブル ： 一部 100Mbps 対応

4.5.2. 利用スレッド数の変更方法

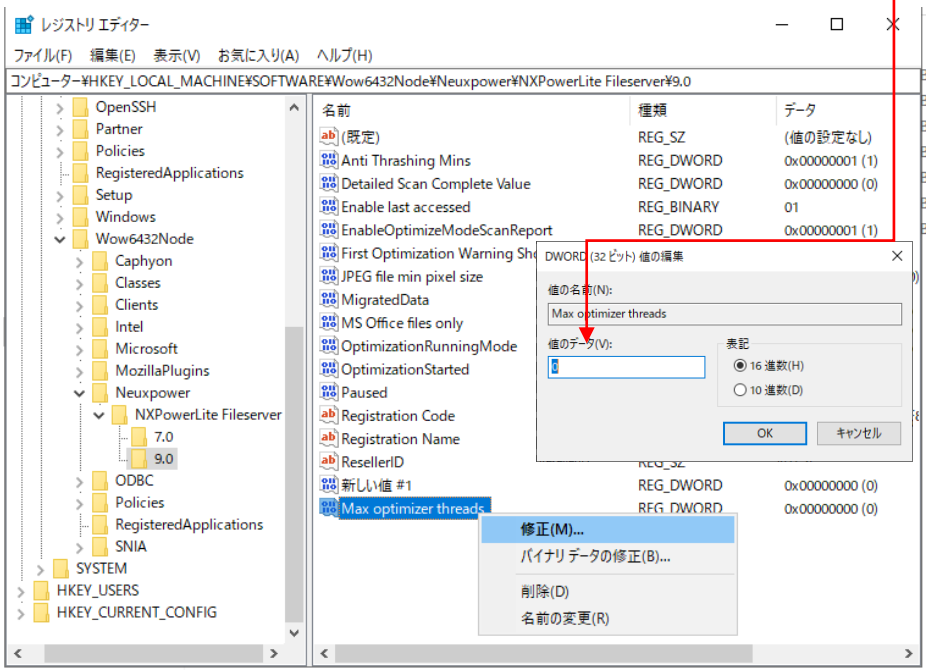
利用スレッド数を変更するには、レジストリ設定の編集が必要です。手順は以下になります：

1. NXPowerLite ファイルサーバーエディションを起動して軽量化処理が行われていないことを確認し、メイン UI を閉じます。
2. Windows のサービスから「NXPowerLite File Server」 の「サービスの停止」を行います。
3. レジストリエディタを起動します（[Windows]+[R]キーを押下後、「regedit」と入力）。
4. 以下のレジストリエントリに移動します。
   HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Wow6432Node¥Neuxpower¥NXPowerLite Fileserver¥10.0
5. 「10.0」を右クリックし、「新規」-「DWORD（32 ビット）値」をクリックします。
6. 新規作成された「新しい値 #1」の名前を「Max optimizer threads」に変更します。



7. 「Max optimizer threads」を右クリックし、修正をクリックして値のデータを任意のスレッド数に変更します。

※　一例として、初期値「0」ですが、４スレッドで処理したい場合は、値のデータに「4」と入力して[OK]をクリックしてください。

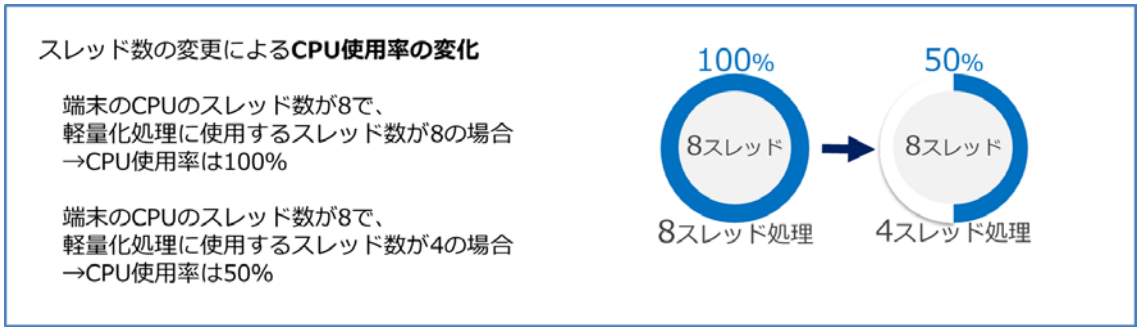


8.　Windows のサービスから「NXPowerLite File Server」の「サービスの開始」を行います。

4.5.3. 端末の CPU コア数/スレッド数の確認方法

1.　Windows キーをクリック後、[検索]に「msinfo32.exe」を入力します。

2.　「システム情報」内の[システムの要約]-[プロセッサ]を確認します。
※４個のコア、８個のロジカルプロセッサと表示されている場合、コア数４、スレッド数８です



4.6. トラブルシュート

NXPowerLite ファイルサーバーエディションで問題が発生した場合は、まずは下記の FAQ に参考情報がないかご確認ください。

NXPowerLite よくあるお問い合わせ（ファイルサーバーエディション）
https://nxpsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/nxpowerlite/fs

問い合わせ頻度の高いものは以下になります：

- インストール時のエラー
- 予期せぬエラーが発生

上記で問題が解決しない場合は、4.9「サポート」をご参照の上、テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

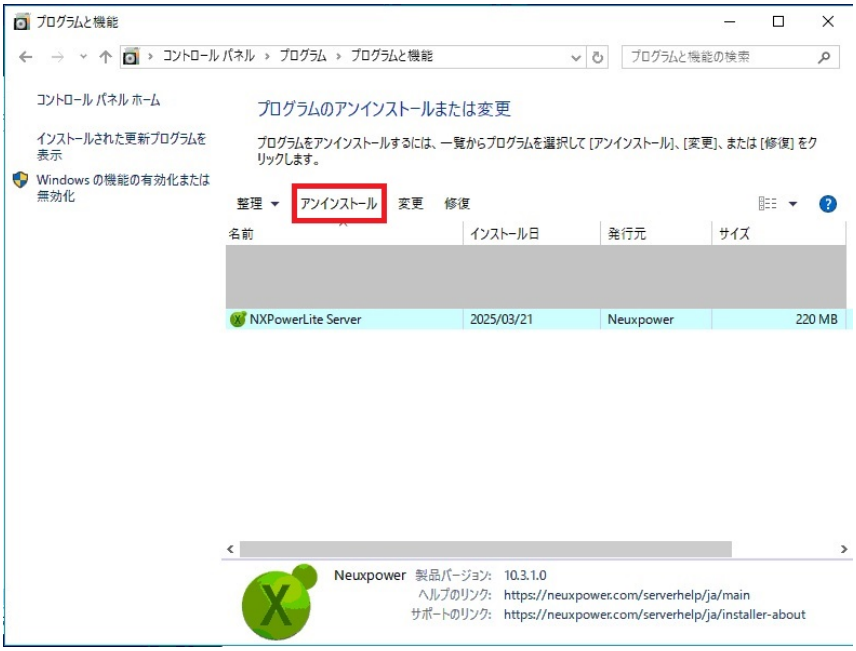
4.7. ファイルの軽量化がスキップされた理由

サポートされているファイル形式であっても、軽量化がスキップされる場合があります。
該当するケースとその理由については、下記のページをご確認ください。
https://nxpsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/articles/reason-for-skipped-or-failed-processing

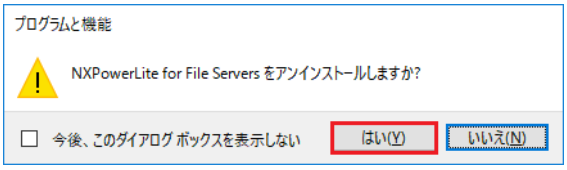
4.8. アンインストール方法

1. Windows の[コントロールパネル]-[プログラムと機能]を選択します。

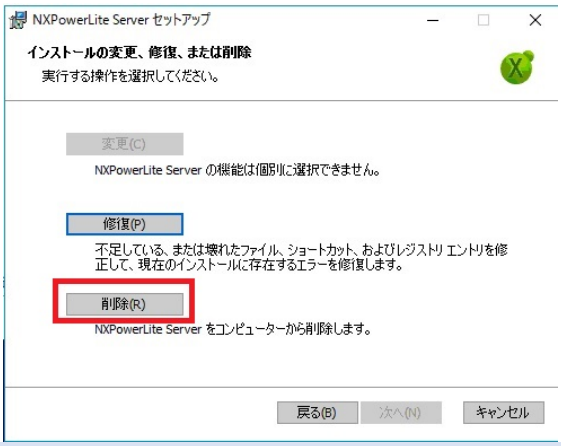
2. ダイアログ内の[NXPowerLite for File Servers]を選択し、[アンインストール]をクリックします。



3. 「NXPowerLite for File Servers をアンインストールしますか？」と表示されたら、[はい]をクリックします。



※ NXPowerLite for File Servers のインストーラーを起動し、「削除」メニューからアンインストールを行うことも可能です。



4.9. サポート

不明点がございましたら、下記のNXPowerLite FAQページをご参照ください。

https://nxpsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/nxpowerlite

FAQをご覧になっても問題が解決しない場合や、その他詳細につきましては、以下のページのお問い合わせフォームよりご連絡ください。

https://www.nxpowerlite.jp/contact-us/after.html

※お問い合わせには保守サポート契約番号が必要です。

NXPowerLiteに関するお問い合わせはメールのみになります。

電話でのお問い合わせは受け付けておりませんのでご了承ください。

NXPowerLite 開発元

Neuxpower Solutions Ltd.

URL: https://www.neuxpower.com/

NXPowerLite 国内総販売代理店

株式会社オーシャンブリッジ

URL: https://www.oceanbridge.jp/